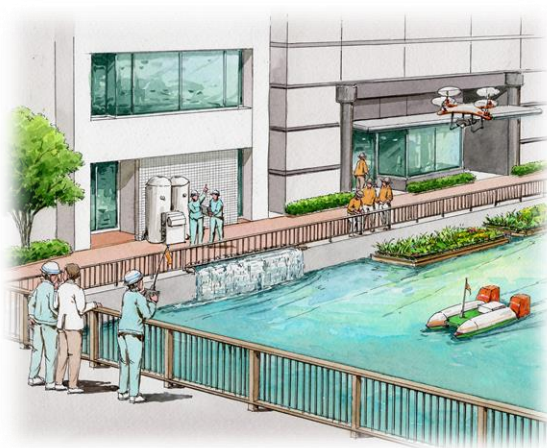
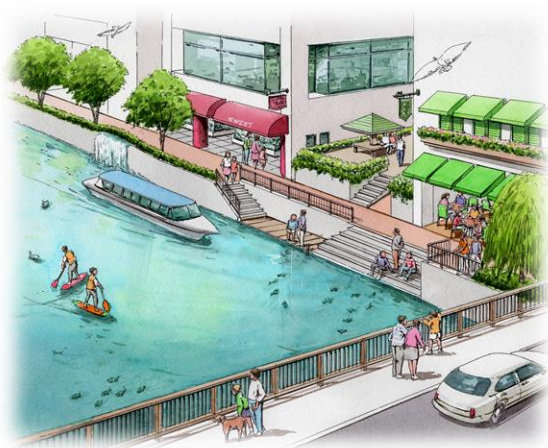


新堀川将来ビジョン

“B”eyond 新堀川

Bringing・Beside 人々を水辺のそばに導き
Born・Business 産業が生まれ高めあい
Brightness 個々が磨き上げた魅力を
Bond 名古屋の南北につなぐ川



2022年3月



名古屋商工会議所

序章 はじめに	2
第1章 新堀川の現状について	
1 新堀川 及び 沿川の歴史	4
2 新堀川の概況	7
3 沿川の特徴	8
1) 土地・建物利用状況及びエリア別特色（エリア分け）	8
2) 公共交通・道路基盤	10
3) 各エリアにおける人口動向	13
4) 公園・緑	16
5) 沿川のにぎわい	18
4 新堀川 沿川の特徴のまとめ	21
第2章 新堀川の活用と沿川まちづくりの課題	
1 川の活用・まちづくりの課題	22
2 名古屋市を取り巻く状況	23
3 新堀川沿川の強みと弱みの比較	24
第3章 提言	
1 目指すべき新堀川と沿川の姿・まちづくりの方針	26
2 まちづくりの方針並びに施策一覧	28
3 方針ごとの施策内容	31
4 時系列別の施策一覧	37
おわりに	38
巻末 参考資料	39

「“B”eyond 新堀川」について

これまで堀川の陰に隠れた存在、「B面」のような立ち位置だった新堀川が、堀川・中川運河に遅れを取らないよう、4つの方針に関連する“B”から始まるキーワードで進化し、現状を越えていく新しい「新堀川」として生まれ変わってほしいという想いを込めた。

はじめに

昨今の国際社会において、SDGsを念頭に置いた取り組みがスタンダードになり、わが国でも、これまで以上に「多様性（ダイバーシティ）」と「包摂性（インクルージョン）」のある社会の実現が求められている。国家や地域、人種や性別などを越えたグローバル化や、脱炭素をはじめとする持続可能な環境対策により、都市間競争も激しさを増している。さらに、急速に進むDX（デジタルトランスフォーメーション）の波により、日本政府は「第5次産業革命」と呼ばれるバイオテクノロジーとデジタル技術との融合に注目し始めており、今後、あらゆるライフスタイルに適応するまちづくりが重要になってくると思われる。

このような中、アジア競技大会の開催や東京～名古屋間を40分で結ぶリニア中央新幹線の建設は、当地のみならず、わが国の国際競争力強化の重要な原動力であり、「世界交流都市・名古屋」へと飛躍するための千載一遇の機会をもたらすものといえる。これらに向け、名古屋市では、中心核である「名古屋駅地区」と「栄地区」におけるまちづくり計画をもとに、名古屋大都市圏の東西に広がる中枢としてふさわしい高い国際競争力を発揮する都心の形成に向けて鋭意取り組んでいる。

一方、当地の観光における重要拠点である「名城地区」や「大須地区」から連なる都心部の南北方向においては、一部エリアでの地域活性化に向けた取り組みはあるものの、当地の魅力を向上させる広域での動きはまだ起きていない。

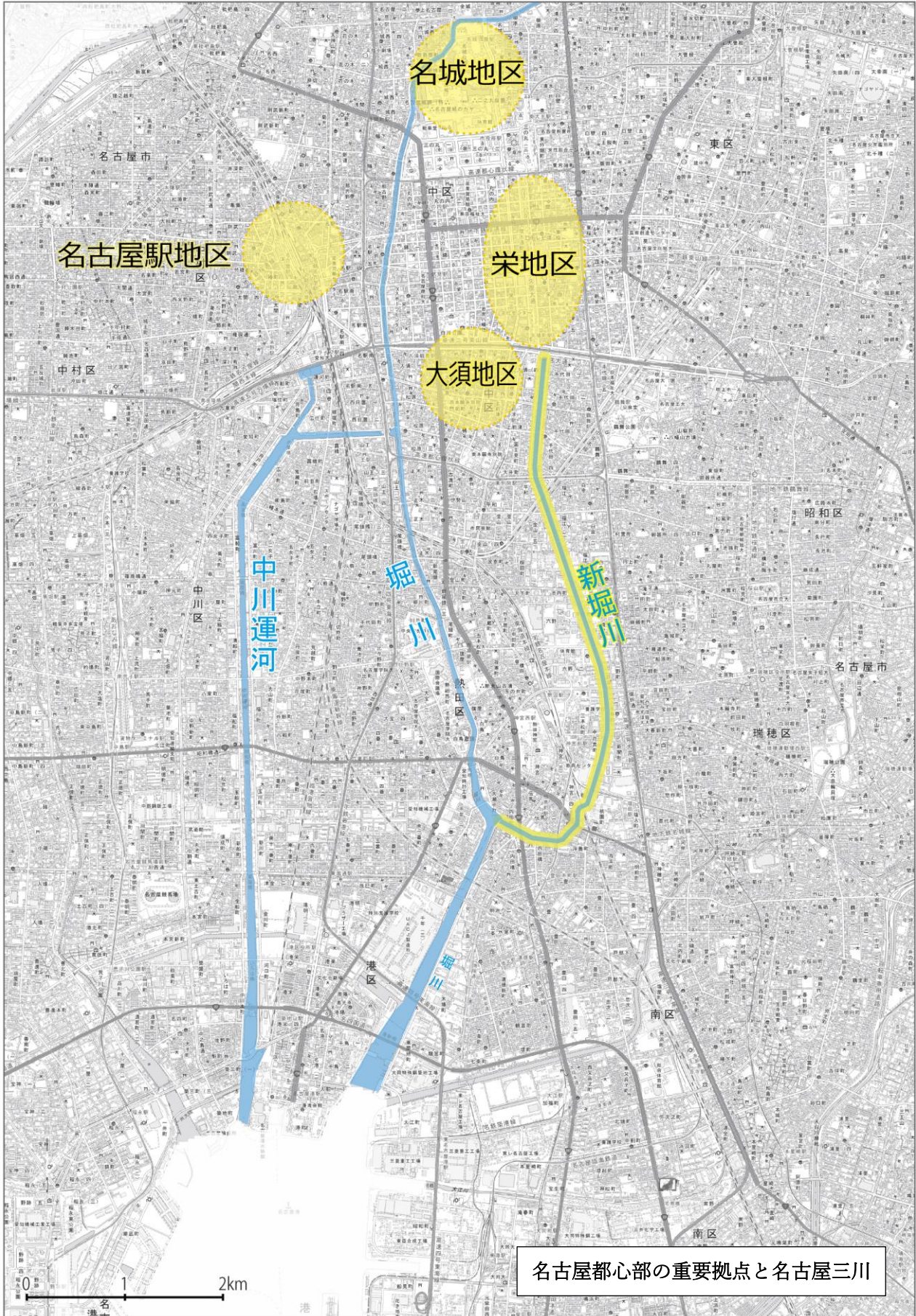
そこで、名古屋商工会議所では、2018年（平成30年）7月にとりまとめた「躍動し愛されるナゴヤ研究会」報告書※において、今後、名古屋という都市のさらなる発展には水辺の活用が不可欠であるという考えのもと、名古屋の都心部を南北に流れる堀川・中川運河・新堀川を“名古屋三川”^{さんせん}と称し、この名古屋城から名古屋港までをつなぐ水辺の活用による都市の魅力向上を推進する『「名古屋三川」魅力向上事業』をまちづくりの重要な取り組みの一つと位置付けた。

しかしながら、新堀川については、「栄地区」において再開発の進む久屋大通公園から連続したエリアに起点を持ち、当地における「にぎわいの中心地」・「産業を支える工業地帯」・「歴史文化（未来への遺産）」を一体の地域としてつなぐ水辺であるにも関わらず、“名古屋三川”の中で最も活用が進んでいない状況にあり、唯一、沿川まちづくりに関する明確な将来の方向性が示されていない。

このことから、今回、「新堀川」に着目し、学識者や市民団体、沿川企業等の参画を得て、各主体が連携・協力してまちづくりに取り組むことにより、他の地域にはない、多様で個性豊かな沿川となるための初めての提言「**新堀川将来ビジョン**」をとりまとめた。

今後、本提言の趣旨に沿い、国や自治体、関係団体や企業、市民などが一丸となって取り組む水辺活用によるまちづくりのパイオニアとなること、さらには、“名古屋三川”を中心とした、当地の南北軸創成による地域全体の発展につながることを期待する。

※リニア中央新幹線の先行開業を見据えた今後の名古屋の目指すべき姿と、その実現に向けたまちづくりと観光・誘客に係る具体的な名古屋商工会議所の取り組みを示した報告書



第1章 新堀川の現状について

本章では、新堀川沿川について、「歴史」「概況」「特徴」の項目ごとに整理した。

1 新堀川 及び 沿川の歴史

今池付近を源流として名古屋台地を流れていた精進川(昔、熱田神宮の神職が6月の名越の祓なごし はらえの際に、この川でみそぎをしたことからこの名が付けられたと言われる)は、多くの湧水による豊富な水量を持っていた。しかし、河川勾配が小さく川筋が蛇行していることなどにより、一帯の低湿地帯(現在の牛巻町、雁道町あたり)において、大雨のたびに起こる洪水氾濫に悩まされていた。

1883年(明治16年)には、浸水被害の解消、日露戦争勃発に伴う熱田の兵器製造所用地の埋め立て、沿川工場地帯(日本車輛、名古屋瓦斯(現在の東邦ガス)等)の開発、博覧会(関西府県連合共進会)会場の確保、鶴舞公園の整備等を目的として、精進川を運河として改修する計画が立てられた。その後、1905年(明治38年)に開削を始め、1910年(明治43年)に現在の川筋に付け替えが完了し、翌年「新堀川」へと名称が変更された。なお、元の精進川は1926年(大正15年)に埋め立てられ、消滅している。

また、1930年(昭和5年)には現在の堀留水処理センターと熱田水処理センターが、1934年(昭和9年)には伝馬町水処理センターがそれぞれ運転を開始。1977年(昭和52年)からは護岸整備及び河床掘削(2009年(平成21年)までに概成)が行われ、1986年(昭和61年)に若宮大通調節池がつくられるなど、今日まで都市の衛生面・治水面の向上に貢献してきている。

新堀川の開削後約40年間は、目まぐるしく変化する社会情勢の中、沿川には木材業を始めとする会社、工場などが進出し、新堀川は東部商工業地帯における重要な河川として年々舟運利用が増加し、出入貨物は1937年(昭和12年)には89万5千tとピークに達した。

戦後においては、産業復興に伴い出入貨物も漸増し、1966年(昭和41年)には58万tにまで回復したものの、大型工場の転出、陸上輸送の発展、また、自己水源が無いことや、流域からの未処理下水の流入、潮汐の影響による水の滞留等が起因すると思われるヘドロの堆積や悪臭発生が、近年、問題視されている。

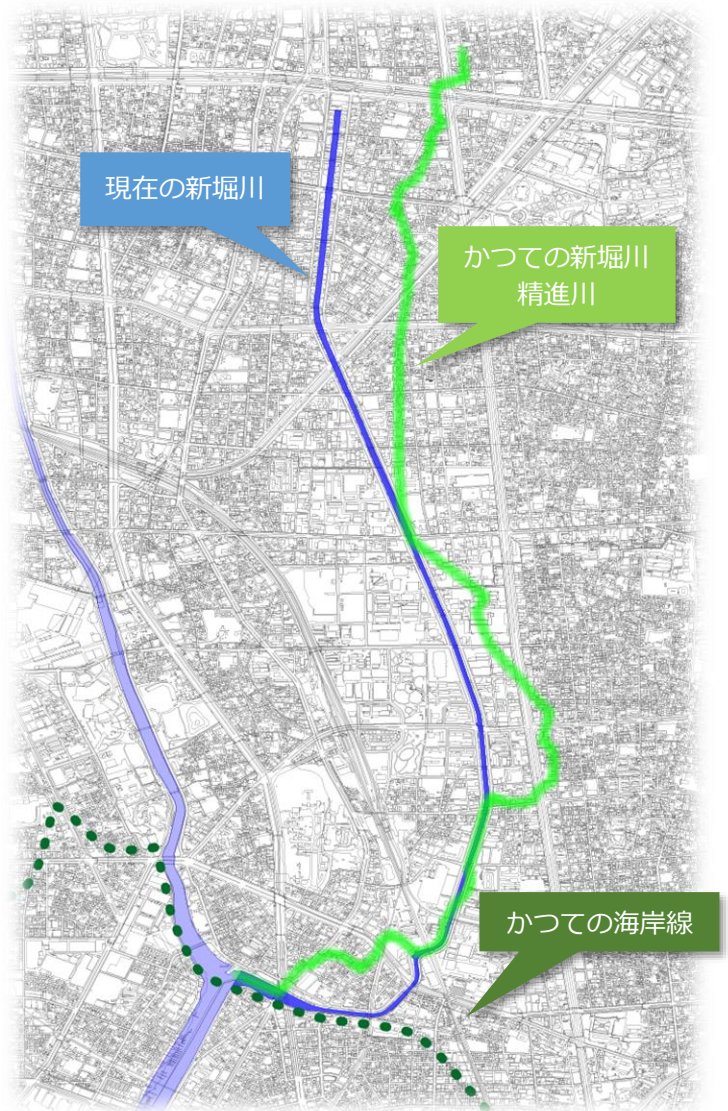


図 -1 精進川と現在の新堀川

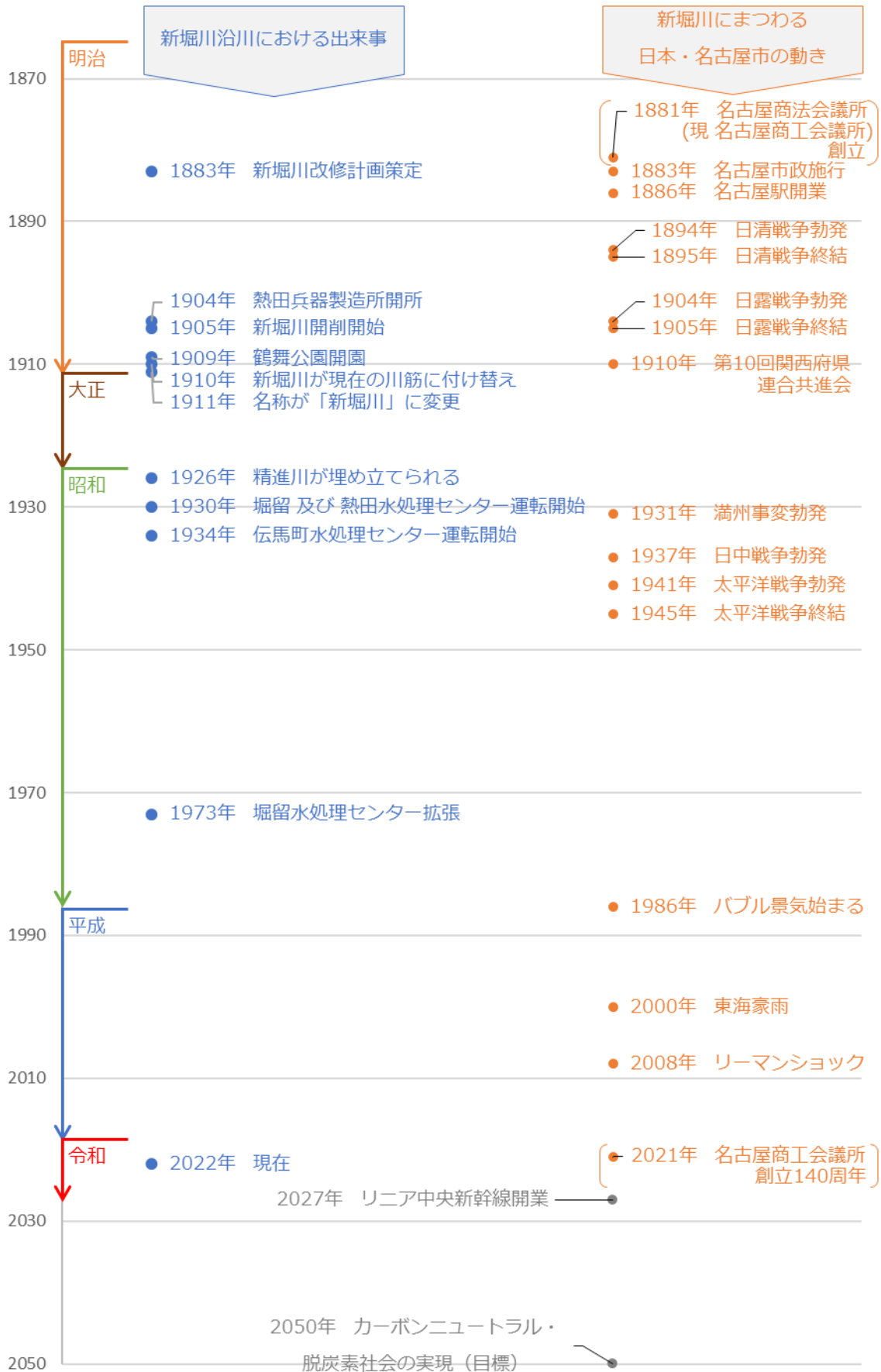


図 -2 新堀川の歴史

沿川地域の移り変わりをしてみると、1610年（慶長15年）の「清須越」以降、次第に名古屋は、まちとしての形成が進んできた。新堀川開削前までは、現在の中区及び熱田区のエリアが市街化され、その周辺は湿地・水田等が広がっていた。

1886年（明治19年）の名古屋駅開業、1889年（明治22年）の市制施行を契機に、鉄道駅とまちを結ぶ幹線道路、路面電車、電気、ガスの整備などの基礎的なインフラが整い、大都市名古屋へ飛躍する基盤が出来上がってきた。1910年（明治43年）に「新堀川」への付け替えが完了し、鶴舞公園を会場とした博覧会の実施や、日露戦争に起因する熱田兵器製作所の立地など、より都市部の発達が促され、新堀川沿川の市街化も急激に進んでいった。昭和初期には、新堀川沿川は概ね現在と同等の範囲が市街化され、主要な道路や鉄道も現在に近い状態となっている。

第二次世界大戦の戦災により都市機能はほぼ停止状態となったが、戦後、総合的な復興都市計画をいち早く作成し事業にとりかかり、1981年（昭和56年）に全48工区の換地処分を終え、現在の名古屋の近代的まち並みの基盤となった。また、新幹線の開通や、地下鉄・高速道路といった交通インフラの整備、着実な下水道整備など、更なる大都市名古屋へ成長し続け、沿川全域が市街化し現在に至っている。



新堀川開削前（明治20年頃）



昭和初期



現在

図-3 まちの変遷

地図資料提供) Network2010

2 新堀川の概況

新堀川は、堀留水処理センターを起点に、堀川との合流点までの延長5.95km、流域面積22.77km²の、名古屋市が管理する一級河川（庄内川水系）である。また、全区間が潮汐の影響する感潮区間であり、名古屋港管理組合が所轄する港湾区域となっている。

水辺とまちは近いものの、積極的な水辺の活用には至っていない状況にある。



図 -4 沿岸の状況

3 沿川の特徴

1) 土地・建物利用状況及びエリア別特色（エリア分け）

周辺地域には多くの建物が密集し、高度に土地利用された都市が形成されている。

全体的には上流の栄地区から南に向かい、商業・住居混在エリア、事業所エリア、商業・事業所・住居混在エリアと変化していく。

J R中央本線 及び 名古屋高速 3号大高線を概ねのエリアの境界とし、上流側では工場などの比較的大規模で低層の建物が多く立地し、下流側ではこれに集合住宅や戸建て住宅が多く混在するような傾向が伺える。

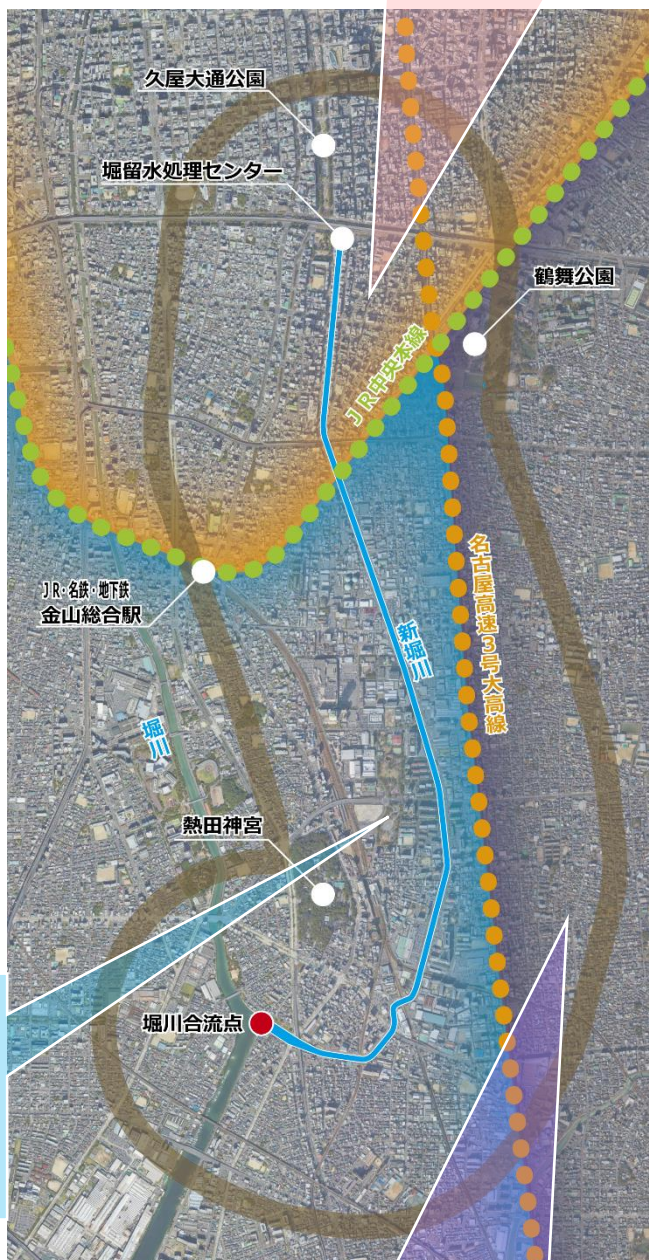
また、名古屋高速3号大高線より東側には、比較的低層の戸建て住宅が広く密集していることがわかる。

このような新堀川沿川のまちの形成は、かつて舟運により繁栄した名残を、中～下流の事業所として残しながら、全域の市街化により広く住居の集積が見られるように、新堀川の存在が影響していると推察される。

さらに、機能的な都市活動の推進、良好な都市環境の形成を図るために名古屋市が定めた「用途地域の指定」により維持・誘導されたところも大きいと思われる。

概ね J R中央本線と名古屋高速3号大高線に挟まれた地域は、工場を中心とする事業所など、比較的大規模で低層の建物が多く立地している。

概ね J R中央本線付近を境に北側は、栄エリアから南側へと続く商業施設やオフィスビルなど、高い建物も多く立地し、密度の高い土地利用がされている。



名古屋高速3号大高線より東の地域は、比較的低層の戸建て住宅が密集している。

図 -5 新堀川 沿川のまちの俯瞰

なお、今後本ビジョンにおいて沿川の状態を示していくに当たり、以下の3つのエリアを定義する。
また、「沿川」の指す範囲を、新堀川から約1km（徒歩15分）のエリアとして定義する。

上流エリア	商業・住居混在エリア(堀留水処理センター ～ 向田橋)
中流エリア	事業所エリア(向田橋 ～ 新堀田橋)
下流エリア	商業・事業所・住居混在エリア(新堀田橋 ～ 堀川合流点)

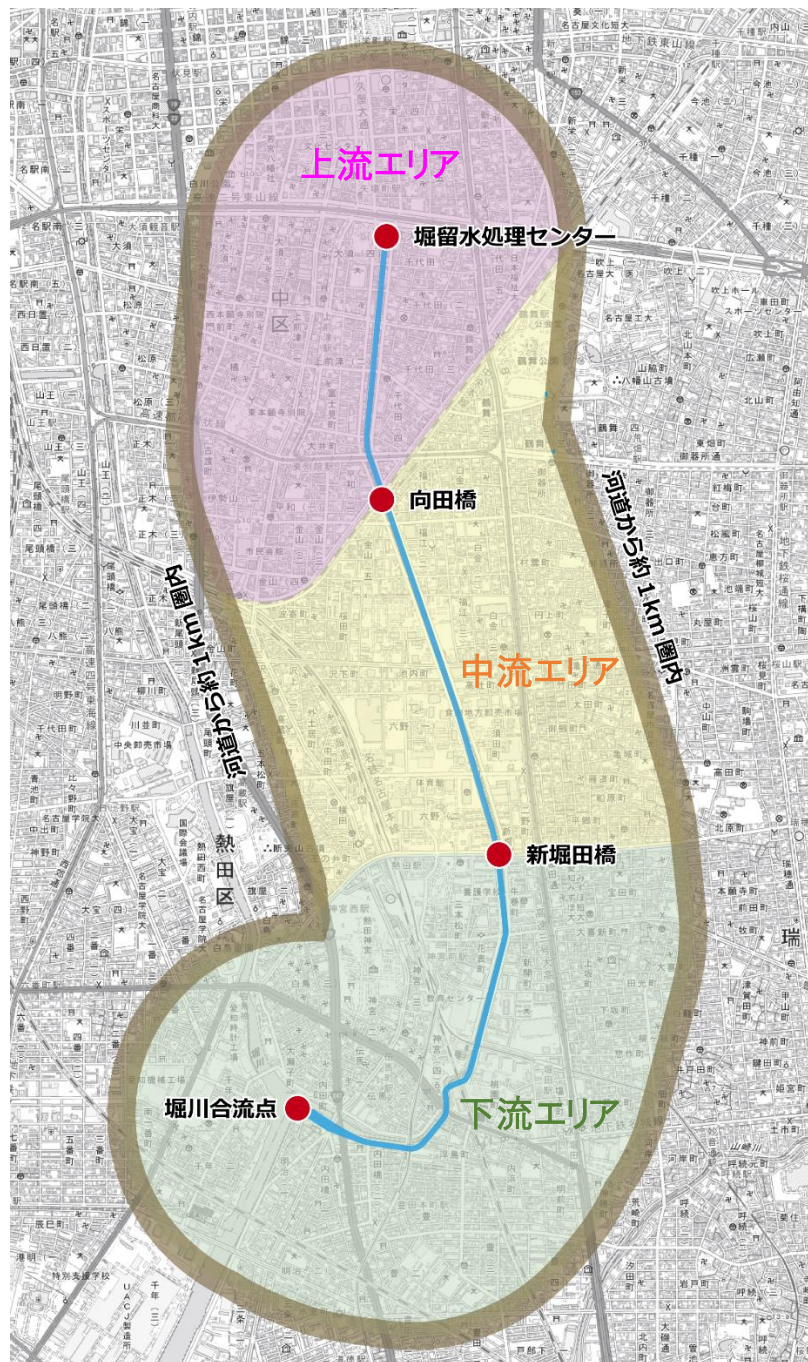


図 -6 新堀川将来ビジョンにおけるエリア区分

2) 公共交通・道路基盤

新堀川の沿川では、JR・名鉄・地下鉄が乗り入れる「金山総合駅」が、1日当たり15万人を超える乗車人員数となっている（名古屋駅の42万人に次いで東海地方第2位）。また、上流端に接続する栄地区における「栄」「矢場町」や、JRと地下鉄が乗り入れる「鶴舞」も比較乗車人員数が多いなど、大きな駅が複数位置する。

市営バスについては、沿川を東西に横断するように複数路線が整備されている一方、沿川を縦断的（南北）に走る路線は少なく、新堀田橋から新内田橋間の周辺にはバス路線は整備されていない状況にある。

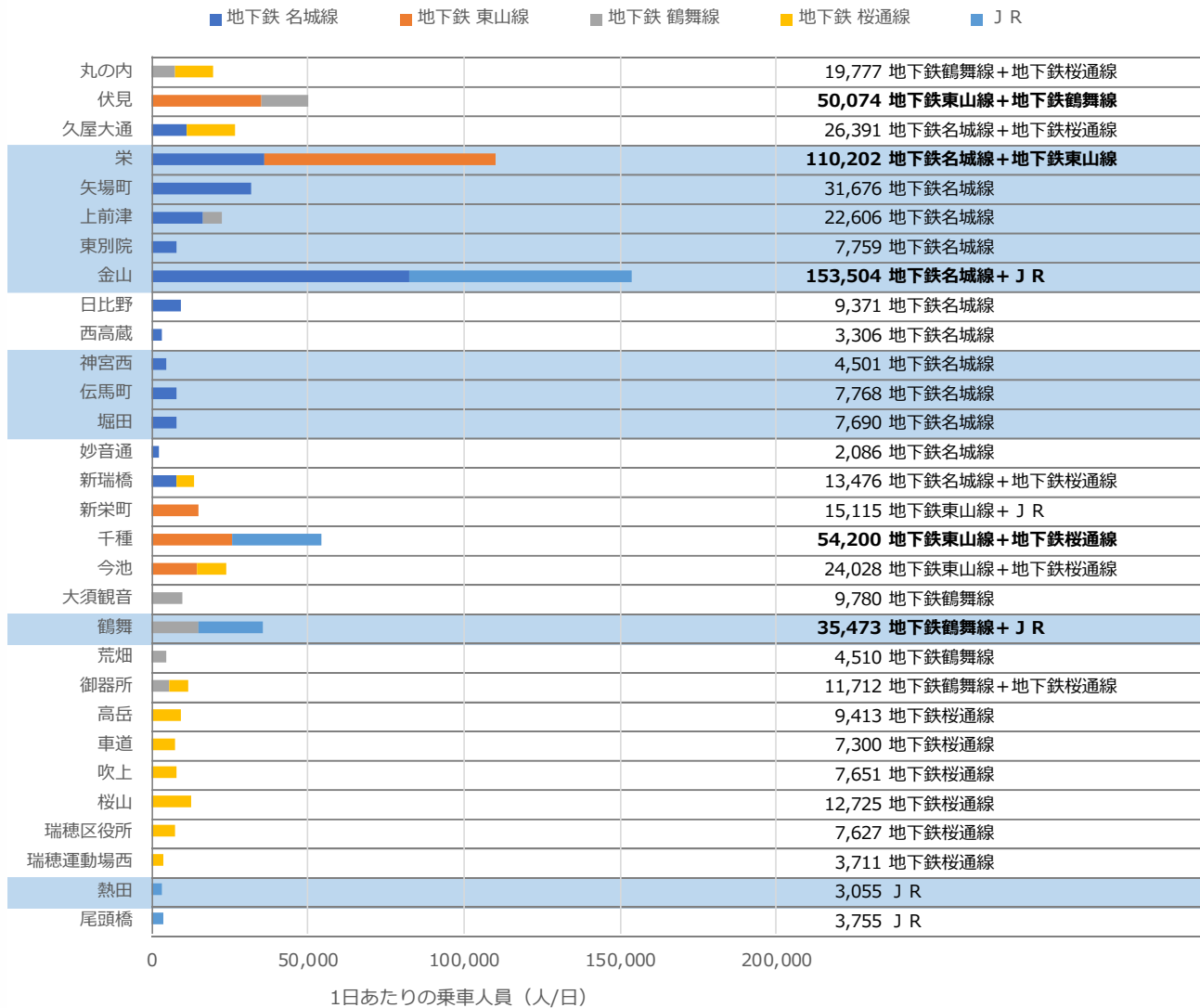


図 -7 新堀川 沿川の各駅における1日あたりの乗車人員（2019年（令和元年））

資料）統計なごや web 版

注）一日あたりの乗車人員数は年間乗車人員数を365日で割った値である。また、複数路線の乗り入れ駅について、乗り換え等は考慮していない。なお、名古屋鉄道の主要駅における乗車人員数は事業者要望により掲載していない。

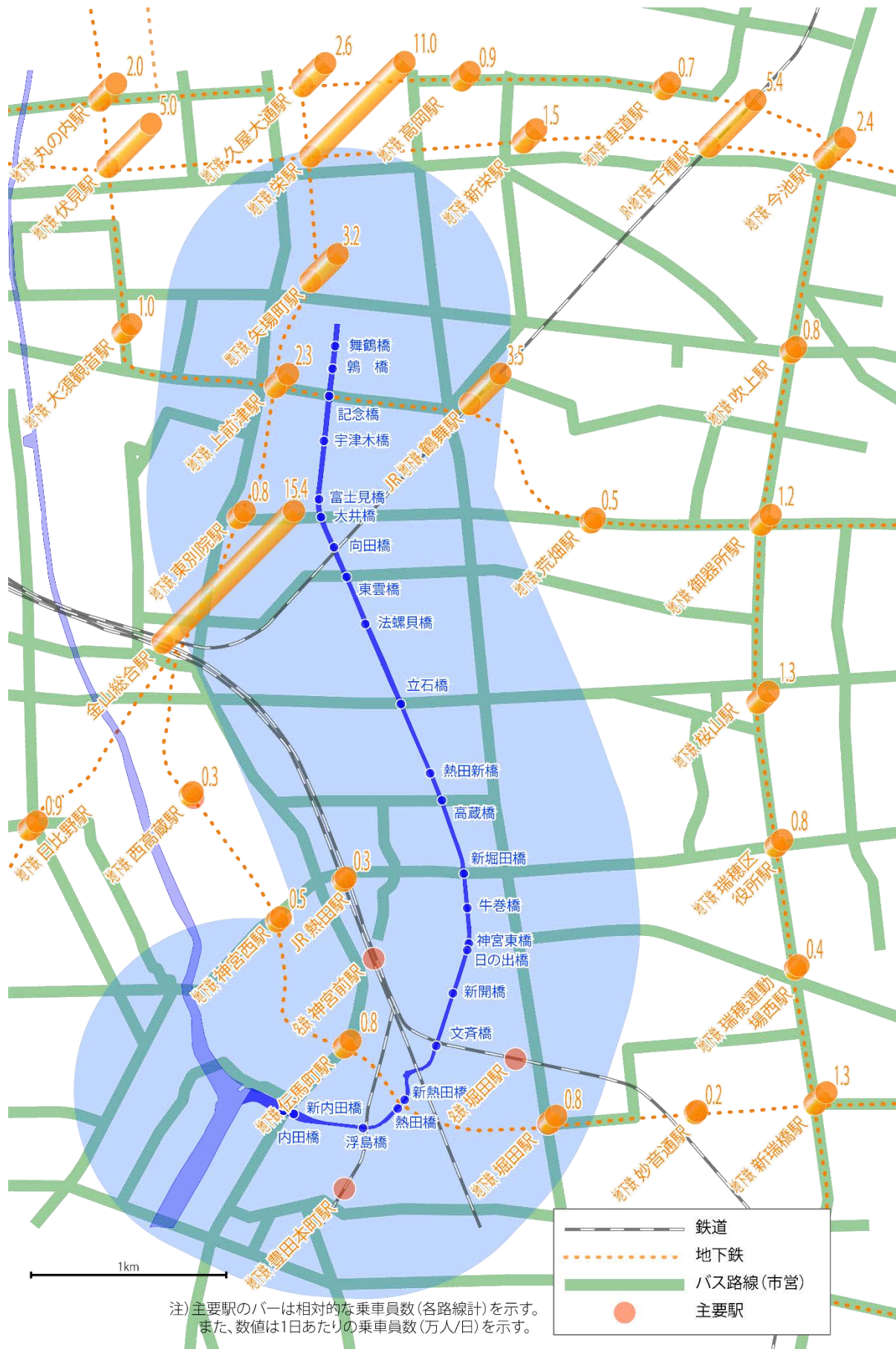


図 -8 新堀川 沿川の主要交通機関

新堀川の西側には大津通が、また、東側には空港線 及び 名古屋高速 3号大高線が南北に縦貫している。また、東西方向には起点付近の若宮大通をはじめ、大須通、山王通、八熊通、雁道線、豆田町線、国道1号が新堀川を横断するように走っている。

一方、沿川直近道路は、上記に比べて交通量は少ないものの、西側を下流向き、東側を上流向きの道路が新堀川を循環するように走っている。

このように、公共交通機関に加え、主要道路が交わっていることや、近傍に名古屋高速道路の出入口（東別院、高辻、堀田）もあることから、交通面において利便性に優れたエリアであると言える。

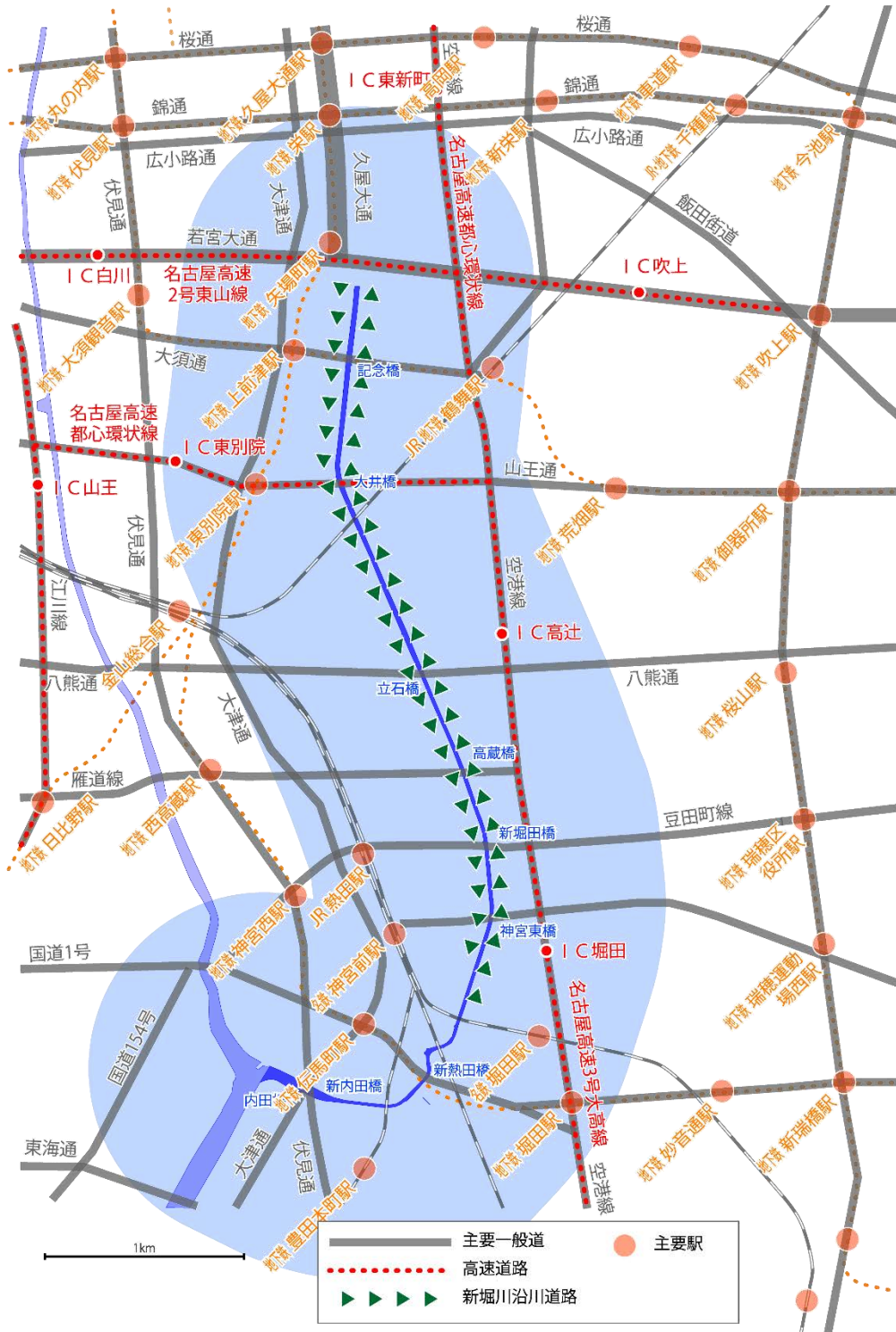


図 -9 新堀川 沿川の主要道路網

3) 各エリアにおける人口動向

沿川エリアの総人口としては、2020年（令和2年）時点において147,400人程度と推定され、同年の名古屋市総人口（約230万人）の約6%にあたる。また、2010年（平成22年）・2015年（平成27年）と比較して、やや増加傾向にある。

区間別にみると、「上流エリア」「中流エリア」は増加傾向にあるものの、「下流エリア」については横ばい～若干の減少傾向もみられる。

なお、集計は沿川エリア範囲内に重なる町の人口を対象とした。

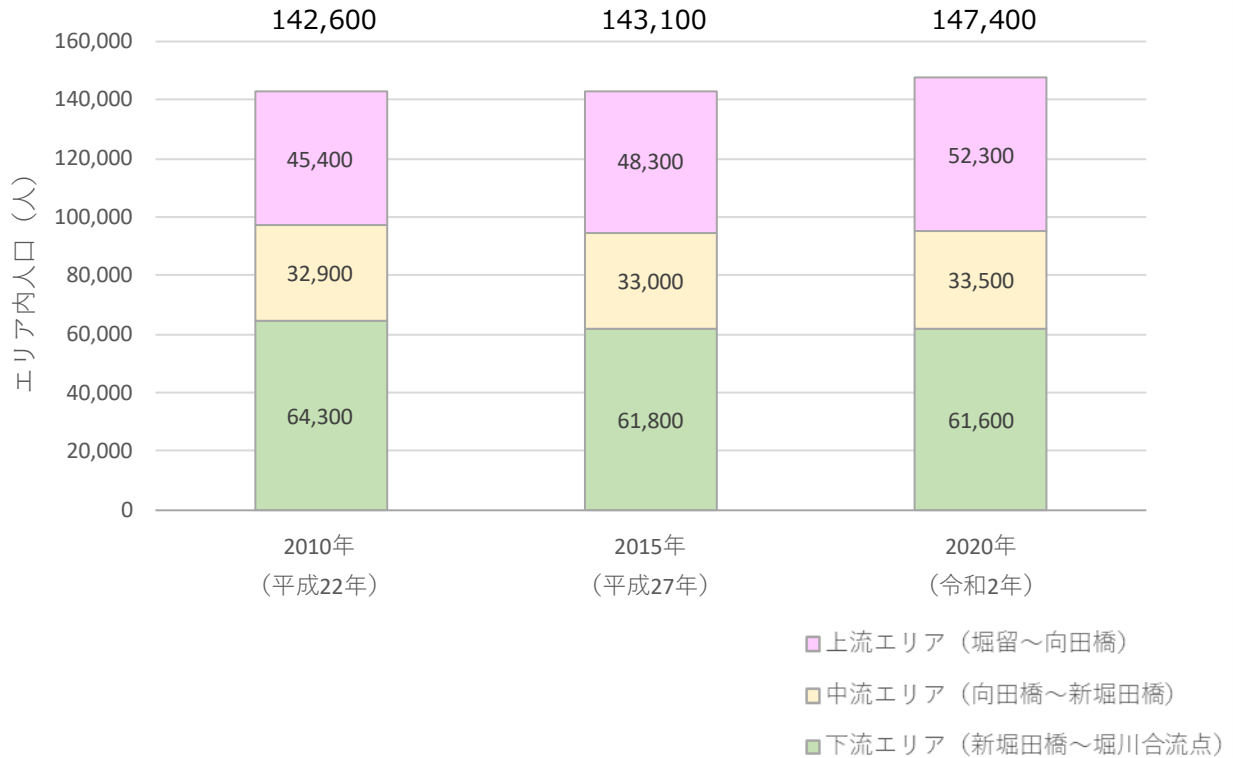


図 -10 新堀川の沿川エリアの人口の推移

資料) 名古屋市ホームページ

町・丁目(大字)別、年齢(10歳階級)別公簿人口(全市・区別)

細かく見ていくと（図 -11）、「上流エリア」に町内人口 1,500 人を超える町が多く分布し、沿川に多くの人定住していることが分かる。特に人口の多い町は、新栄一丁目 5,251 人と 5,000 人を超え、次いで千代田三丁目 4,639 人、千代田二丁目 3,548 人と続くなど、「上流エリア」に集中する。

一方、「中流エリア」は、上流・下流エリアと比較すると、やや人口が少ないエリアとなっている。これは、このエリアは他のエリアよりも事業所が多いため、定住人口が比較的少ない結果となっていると推察される。

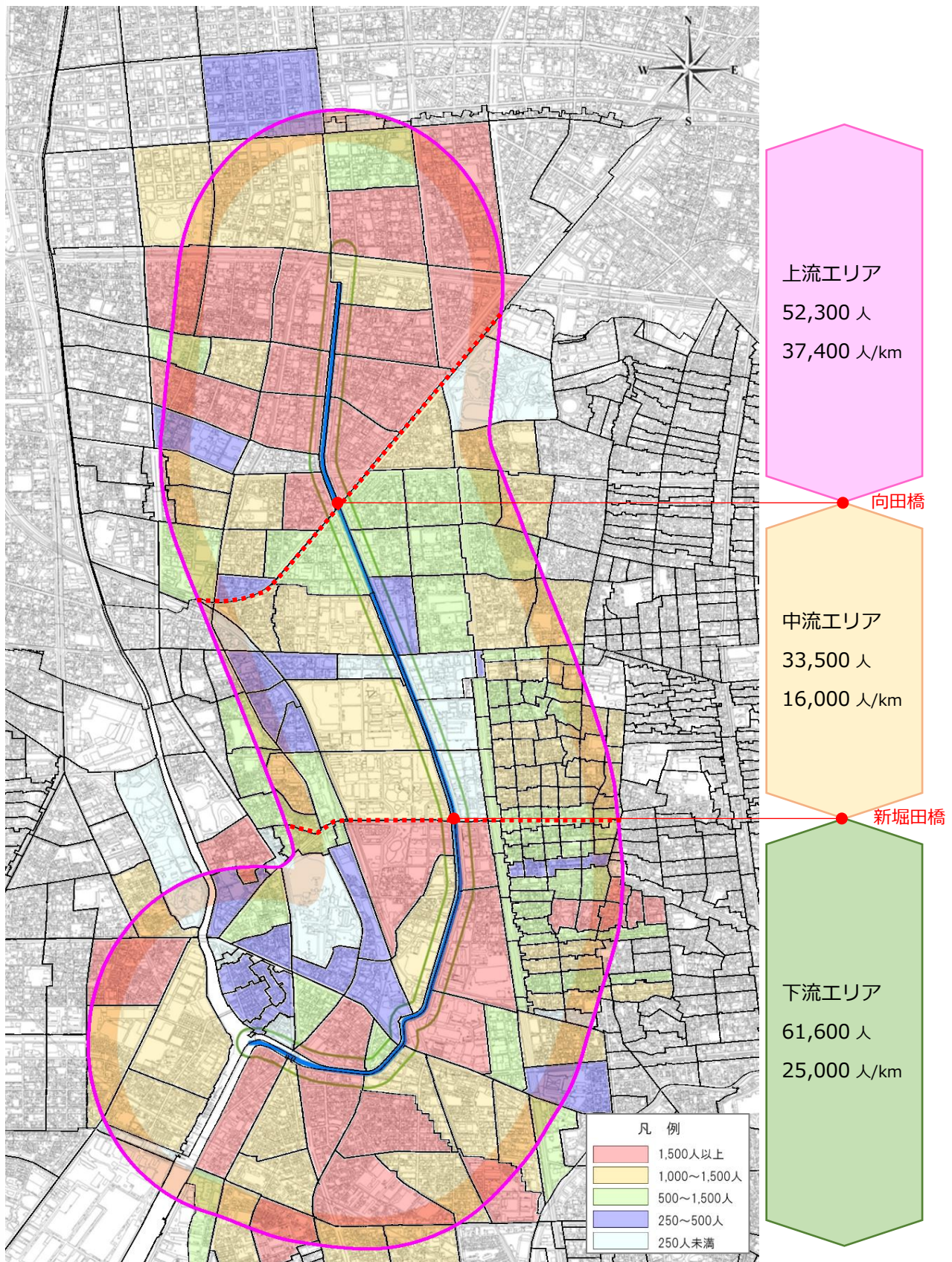


図 -11 新堀川の沿川エリアの人口の分布 (2020年 (令和2年))

資料) 名古屋市ホームページ 町・丁目(大字)別、年齢(10歳階級)別公簿人口(全市・区別)

注) 右の区間毎の数字は、上段は河道から1km圏内に位置する町人口の総計、下段は区間延長あたりの町人口を表す。

沿川全域の定住人口と昼間人口を比較すると(図-13)、上流エリアにあたる中区については、定住人口に対して昼間人口は365%となっている。これは、事業所従業員や学生、来訪者等、区内に多数の流入人口によるものと推察される。

また、熱田区・昭和区も定住人口に対して流入人口の割合がやや多い。

一方、瑞穂区、南区については、流出人口・流入人口が同程度となっている。

以上からわかるように、上流エリアにおいては人口の流動性が高く、下流に進むにつれ流動性が下がり、定住者が増えていく特徴が伺える。

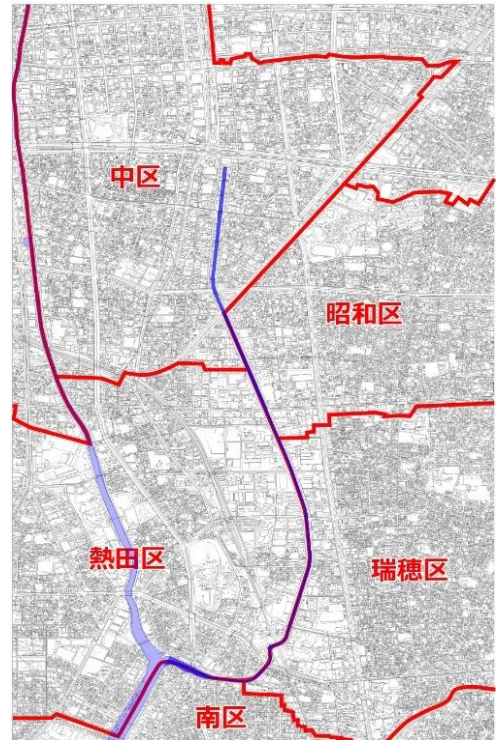


図-12 新堀川沿川区

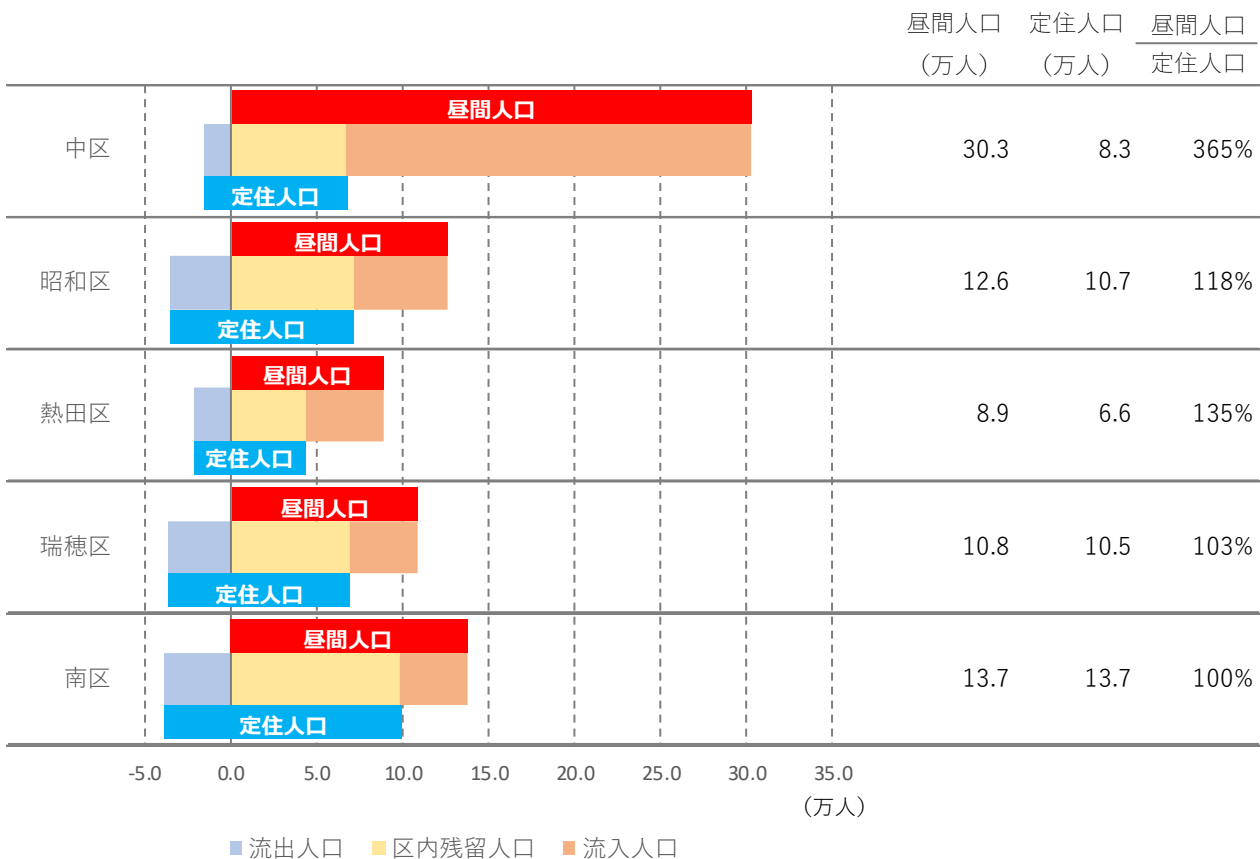


図-13 新堀川沿川の区の定住人口・昼間人口 (2015年(平成27年))

資料) 2015年(平成27年)国勢調査の結果より加工

4) 公園・緑

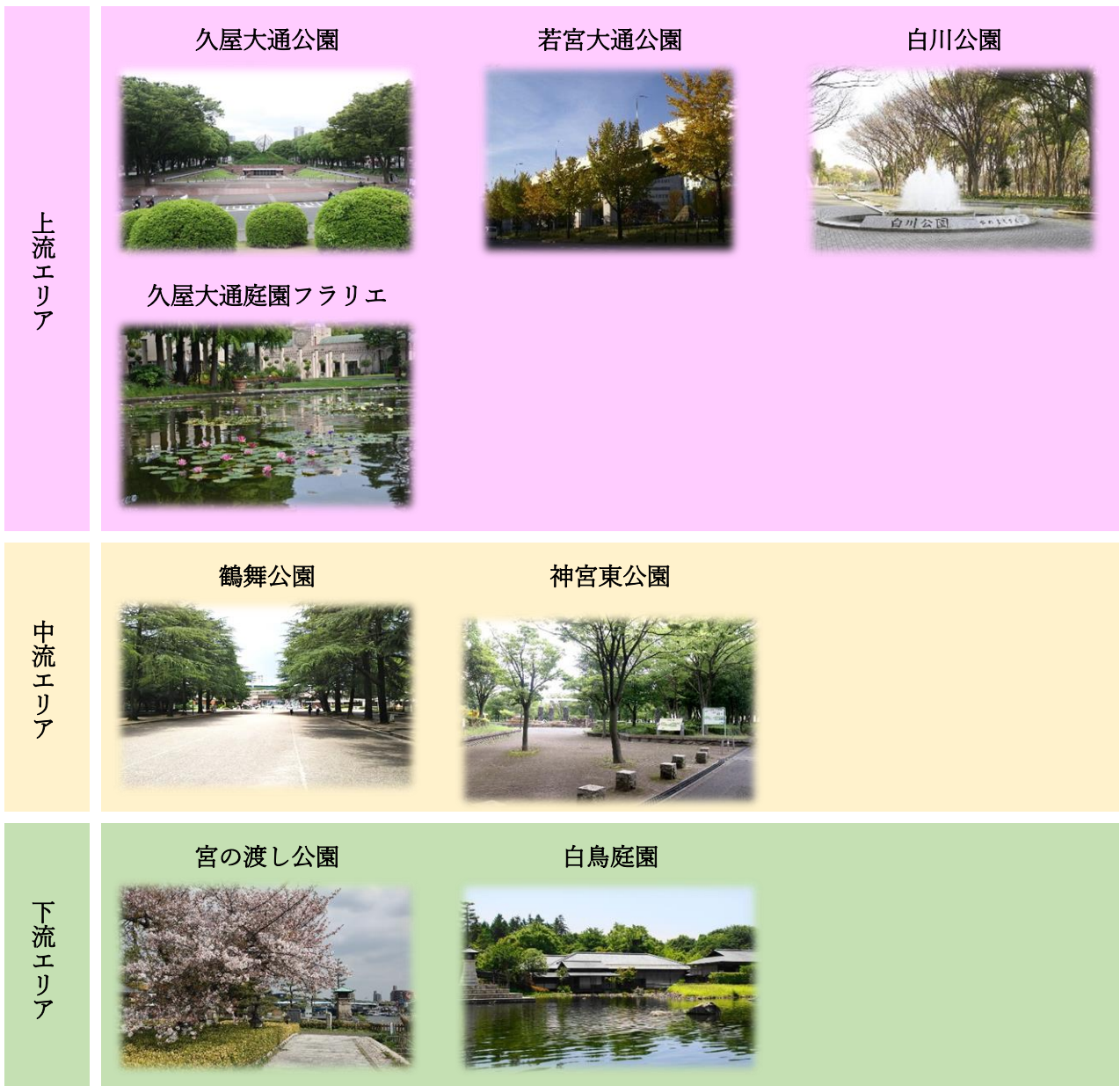
新堀川の沿川にある公園は、大規模なものとして、上流エリアに位置する「久屋大通公園」「若宮大通公園」、中流エリアの「鶴舞公園」「神宮東公園」、下流エリアの「宮の渡し公園」などが整備されている。

その他にも、比較的小規模なものを含めると沿川には多数の公園が整備されている。

また、新堀川に接続する主要な周辺道路には街路樹が整備されており、緑の空間が連続する。特に中区は比較的密に整備されている。(図 -14)

以上のことから、各エリアに大規模な公園が立地しており、大小の公園周辺には街路樹が整備されているため、緑を身近に感じられる環境にある。

新堀川 沿川の主な公園施設



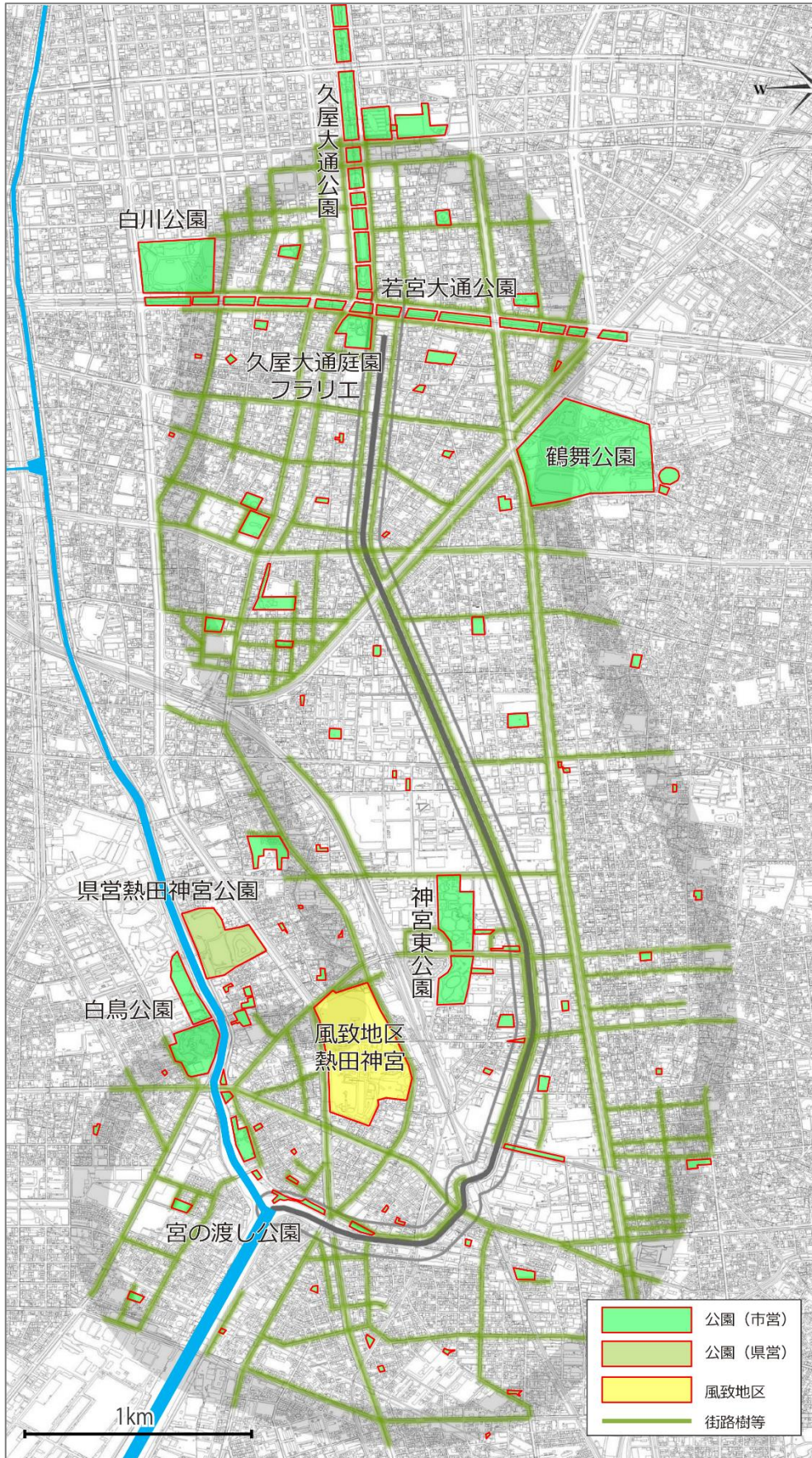


図 -14 公園・街路樹の分布

資料) 公園配置図 (名古屋市提供)

5) 沿川のにぎわい

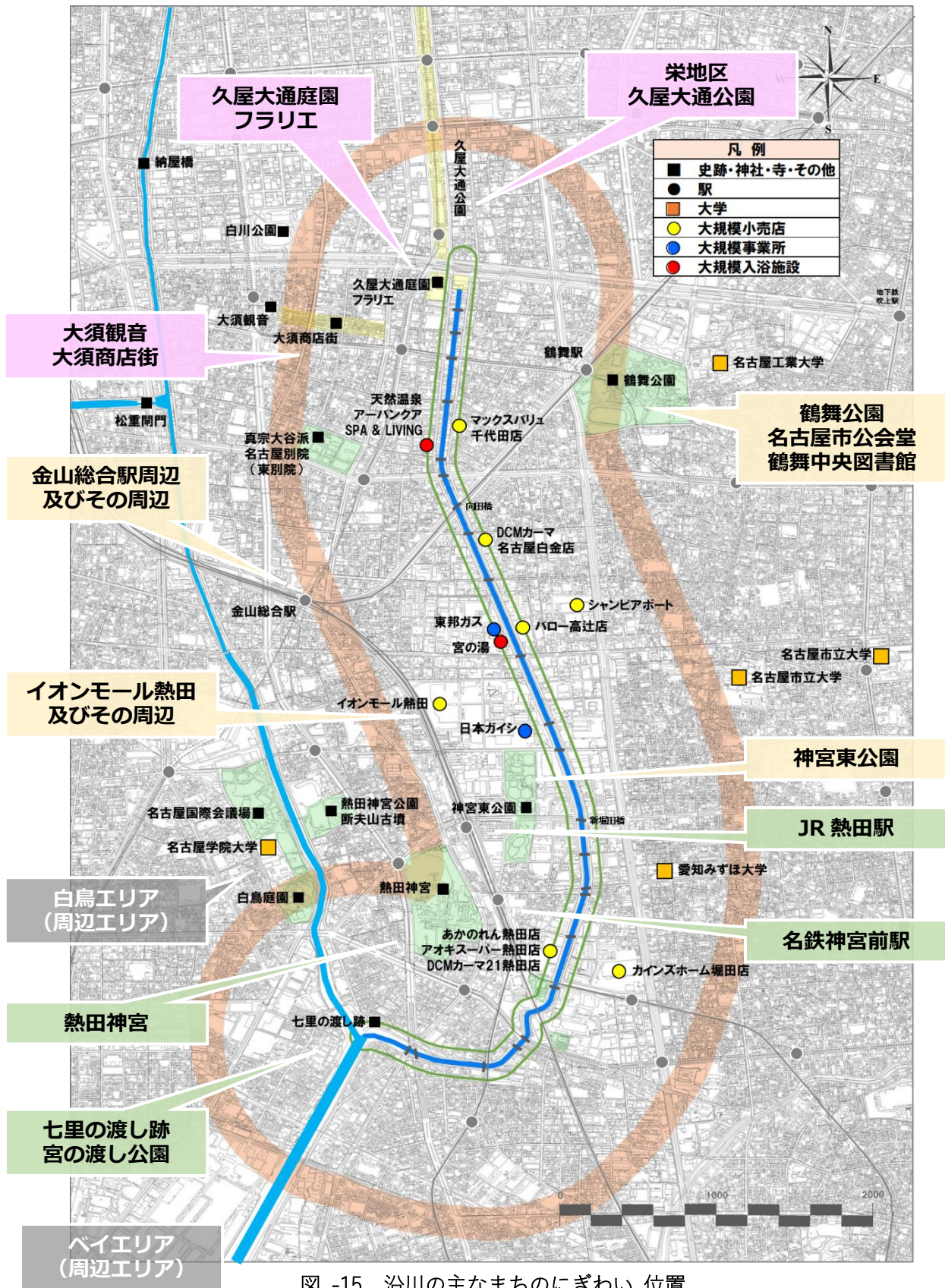


図 -15 沿川の主なまちのにぎわい 位置

沿川の主ににぎわいスポット 概要

<p>上流エリア</p>	<p>栄地区 久屋大通公園</p> 	<p>久屋大通庭園 フラリエ</p> 	<p>大須観音 大須商店街</p> 
<p>中流エリア</p>	<p>鶴舞公園 名古屋市公会堂 鶴舞中央図書館</p> 	<p>金山総合駅周辺 及び その周辺</p> 	<p>イオンモール熱田 及び その周辺</p> 
<p>下流エリア</p>	<p>JR 熱田駅 名鉄神宮前駅 及び その周辺</p> 	<p>熱田神宮</p> 	<p>七里の渡し跡 宮の渡し公園</p> 
<p>周辺エリア</p>	<p>白鳥エリア</p> 	<p>ベイエリア</p> 	

4 新堀川 沿川の特徴のまとめ

【全域的な特徴】

- 「にぎわいの中心地」・「産業を支える工業地帯」・「歴史文化（未来への遺産）」というエリア特性が沿川に連なっている。
- 公共交通機関・主要道路・近傍の名古屋高速道路の出入口など、沿川エリア全体において交通面の利便性に優れたエリアである一方、沿川南北方向の交通は充実していない。
- 沿川エリアには名古屋市全体の約6%（147,400人）の人口を抱え、やや増加傾向にある。
- 多様な属性の定住者・就労者・観光客などへの包摂性が不十分。
- 大規模から小規模までバランスよく多数の公園があり、緑の空間を身近に感じやすい一方、沿川に親水空間がない。

【エリア別の特徴】

	上流エリア	中流エリア	下流エリア
まとめ	商業・住居混在エリア 栄エリア・大須商店街などにより、流動性が高く、都心部のにぎわいと直結。	事業所エリア 名古屋の「モノづくり」を支える工場などの事業所が多く立地。	商業・事業所・住居混在エリア 熱田神宮・七里の渡しなど、「歴史・文化」を感じられる施設が立地。
建物・土地利用	○商業施設・オフィスビル・マンションが密集。 ○川に背を向けて立地。 ○老朽化が進んだ建物が多い。	○工場など低層の事業所や駐車場が多い。 ○比較的水辺が見えやすい。	○事業所や商業施設に加え、JR・名鉄より上流側には集合住宅、下流側には集合住宅や戸建て住宅が密集。 ○集合住宅等、老朽化が進んだ建物が多数。 ○比較的水辺が見えやすい。
人口動向	○増加傾向 ○3エリアで最も人口が多い。 ○定住人口に対する昼間人口が365%と流動性が高い。	○増加傾向 ○他エリアと比較して定住人口が少ない。	○横ばい～減少傾向 ○定住人口は多いが、流動性が低い。
道路・公共交通	○栄・矢場町駅が立地。 ○東西南北への交通手段が多い。 ○川の起点部分で水辺へアクセスしづらい。	○金山・鶴舞駅が立地。 ○東西には移動しやすいが、南北が乏しい。 ○にぎわい施設から川への誘因が弱い。	○神宮前・熱田駅が立地。 ○東西には移動しやすいが、南北が乏しい。 ○河口付近で沿川の道路が途切れる。
公園・緑	○久屋大通公園・若宮大通公園が立地。 ○久屋大通庭園フラリエでは都心部で多くの緑に触れられる。	○鶴舞公園・神宮東公園が立地。 ○公園の広いスペースを利用した公共空間の活用が考えられる。 ○比較的沿川に緑が多い。	○白鳥公園・宮の渡し公園が立地。 ○歴史の風情と一緒に緑を感じられる。
地域資源	○都心部のにぎわいの中心である栄・大須と直結。 ○新堀川の起点になっている堀留水処理センターは、まちづくりを進めるため廃止し、跡地の利活用を検討中。	○金山駅・イオンモール熱田・鶴舞公園など、幅広い人が集まる施設が多く立地。	○熱田神宮・宮の渡し・名古屋国際会議場など、人が多く集まり、「歴史・文化」を感じられる施設が立地。

第2章 新堀川の活用と沿川まちづくりの課題

国際的なSDGsによる、幅広く性質の異なるものの存在を認めていく多様性社会への対応が活発になる中、名古屋市は内閣府より「SDGs未来都市」に選定され、持続可能なまちづくりが重要になっている。

それに加え、アジア競技大会の開催やリニア開業によって、国内外から多くの人々が、名古屋を訪れることが想定されることから、そのインパクトを最大限に活かすためにも、如何にして来訪者を名古屋市全域に回遊させるかが大切である。そのためには、新堀川が魅力ある水辺となることに加え、沿川をはじめとした都心部から広がる南北の各地区が魅力と個性を持たなければならない。

そこで、第2章では、本ビジョンの第1章で整理した新堀川の歴史・現状を踏まえながら、名古屋市を取り巻く状況と沿川の強み・弱みを整理し、川の活用とまちづくりの課題を洗い出した。

1 川の活用・まちづくりの課題

1. 川に開かれたまちづくり

今後、豊かでにぎわいのあるまちにするためには、都心部の貴重な水辺空間である新堀川の活用は不可欠であるにも関わらず、周辺企業及び住民の新堀川への関心や愛着は希薄で、人の寄り付かない空間になってしまっている。川をまちの中に取り込み、にぎわいを水辺へ引き寄せていくためにも、川と都市が結びつきを持ったまちづくりが必要である。

2. 個性と多様性が生まれる川の活用

SDGsによる持続可能なまちづくりを進めていくためにも、都心部から次々と生まれてくる新しいもの・新しい取り組みを、市内に広く浸透させていくことは大変重要である。都心部を起点として南北に流れを持つという特徴を活かし、沿川地域はもちろん、川そのもの及び川上部の空間も含めた活用により、水辺から個性を生み出し、その多様性を受け入れる沿川となることが必要である。

3. エリアごとの魅力・特色を活かしたまちづくり

上流・中流・下流の3エリアは、利用状況が大きく異なり、特有の個性があるにも関わらず広域の沿川まちづくりは進んでいない。それぞれの持つ強みを伸ばし、「ビジネスや飲食店の集積」「産業発展の拠点」「地域資源や豊かな自然との触れ合い」など、名古屋市内外に魅力を発信していけるようなまちづくりが必要である。

4. 都心部への人流促進

アジア大会やリニア開業のインパクトを享受するにあたり、都心部から東西方向のまちづくりは大きく進行しているものの、南北方向への取り組みが少ない状況にある。名古屋市全体として盛り上がりを作れるよう、都心部から南北に流れを持つ新堀川沿川の交通利便性を更に高め、上流・中流・下流の3エリアの魅力をつなぐことで、来訪客はもちろん、沿川企業及び住民の都心回遊を促進する役割が求められる。

2 名古屋市を取り巻く状況

状 況
<p>20～30代の関東圏への人口流出・少子高齢化</p> <p>名古屋市全体としては人口の転入数が上回るものの、20～30代においては、関東圏への転出超過が起きており、人口流出が続いている。今後、日本において見込まれる人口減少や少子高齢化の加速による働き手の不足、経済成長への影響が懸念されている。</p>
<p>ライフスタイルの多様化</p> <p>都市化の進展や核家族化、働き方改革やテレワーク導入などによる就労形態の変化などにより、人々のライフスタイル・価値観が多様化している。</p>
<p>SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み</p> <p>脱炭素に向けた動きや再生可能エネルギーの導入促進など、まちづくり・環境・グローバル・ジェンダーなど多岐に渡り取り組みが進められている。</p>
<p>リニア中央新幹線の開業による交流人口の増加</p> <p>東京～名古屋間のリニア中央新幹線の開業により、7,000万人規模の人口圏 スーパー・メガリージョンが形成されるとともに、東京と大阪の中心として名古屋市に生産額 392 億円/年の増加をもたらすことが期待されている。</p>
<p>リニア中央新幹線の開業を見据えたまちづくりの活性化</p> <p>名古屋駅周辺地区、栄地区を 2 核一体とする都心部において、高い国際競争力を発揮する都心部の形成を目指し、まちづくりが進められている。</p>
<p>東京一極集中の加速</p> <p>リニア中央新幹線の開業により、結ばれた二つの地域間において相対的に小さな地域から大きな地域へと人や経済が吸収される「ストロー現象」という現象が生じることが懸念される。このように、広域的には大きな経済効果が期待されるが、名古屋市や周辺自治体では、ストロー現象により首都圏に人口や経済が吸い取られる可能性もある。</p>
<p>南海トラフ巨大地震や集中豪雨など、自然災害の発生</p> <p>南海トラフ巨大地震は、マグニチュード 8～9 クラスの地震の 30 年以内の発生確率が 70～80%（2020 年時点）と言われており、津波等による大きな被害の可能性がある。</p> <p>また、近年、豪雨による災害も頻発化・激甚化するとともに、高潮災害など様々な水災害の可能性も高まっている。</p>

3 新堀川沿川の強みと弱みの比較

項目	強み	弱み
交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人流に3エリアそれぞれの特徴を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビジネス客や観光客の回遊性が乏しい（まちの魅力不足や情報不足）
交通結節	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主要駅や高速道路があり、交通利便性が高い ○ 都心部（栄エリア）に接続している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 沿川を縦貫（南北方向）する公共交通機関の機能が弱い ○ 川への誘導機能が整っていない
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区ごとの特色を活かしたまちづくりが進んでいる ○ 新堀川を活用したまちづくりが可能 ○ 都心部において貴重な水辺空間が身近に存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新堀川を中心としたエリアマネジメントが構築されていない ○ エリア全体としての連携が進んでいない ○ 建物が川に背を向けている
歴史・芸術・文化・地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的な史跡や施設が沿川に点在する ○ 文化・観光ポイントとして活用可能な資源が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史・文化・観光の各スポットと公共交通機関の接続が不十分 ○ 統一した街路の整備や誘導機能が不十分 ○ 各種資源の情報発信が不足している
ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中小から大企業まで、様々な事業所が多く立地している ○ 比較的、開発余地のある空間がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業誘致や支援等、進出企業へのメリットの整備及びPRが不足している
商業・飲食	<ul style="list-style-type: none"> ○ 潜在的な利用者人口が多い ○ 水辺空間を活かした展開が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川沿いに飲食店や商業施設が少ない
憩い 落ち着き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 沿川に公園や緑の空間が多い ○ 憩える場所を必要とする住民・企業が多く存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親水空間・遊歩道が整備されていない
住み心地	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古くからの地域コミュニティが形成されている ○ 住職近接のポテンシャルが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下流エリアに老朽化した建物が散見される

コラム 新堀川体験乗船会の実施

新堀川将来ビジョンの検討に先立つ 2021 年（令和 3 年）5 月、検討会議委員を対象に「新堀川体験乗船会」を開催した。

新堀川の現状を視察すると共に、船内で名古屋市緑政土木局河川部河川計画課から、堀川・新堀川の歴史やこれまでの水質浄化への取り組み、今後の浄化方針について説明があった。



視察後のアンケートでは、「新堀川の課題」と「活用・盛り上げのアイデア」を参加者より頂いた。これらの意見を踏まえつつ、新堀川将来ビジョン検討会議で提言及び施策案の検討を進めた。

<主な意見>

【新堀川の課題】

- 悪臭・水質（下水流入）改善
- 新堀川に対する周辺住民・沿川企業の関心の低さ
- 人が訪れにぎわう環境の創出
- 川岸・沿道のポテンシャルアップのための区画・景観整備

【新堀川の活用・盛り上げのアイデア】

- 新産業育成・実証実験フィールド化
- 環境・水質改善の取り組みのビジネス化
- 周辺住民・企業に対する問題意識の植え付け活動
- 橋周辺を起点とした川岸の賑わい機能を誘致
- 水運としての活用
- 暗渠化による上部空間活用



カモ



カワセミ



ボラ

写真提供：堀川 1000 人調査隊事務局

第3章 提 言

本章では、第2章で示した課題に対して、目指すべき新堀川及び沿川まちづくりの方向性と、その実現のために必要となる施策について提言を行う。

沿川のまちづくりは、アジア競技大会やリニア開業を契機・目標とする一方、名古屋市が進める新堀川の水質浄化と並行して進めていくことが必要不可欠である。さらに、SDGs（2030年）やカーボンニュートラル（2050年）という社会目標、CASEやMa a Sという車社会の将来も見据えなければならないことから、本章においては、実現目標を短期（5年以内）と中期（5～15年後）、長期（15～30年後）として、行うべき施策を整理するとともに、各施策において、にぎわい創出・ビジネスの観点から、より必要性が高いと思われるものを重要施策として位置付けた。

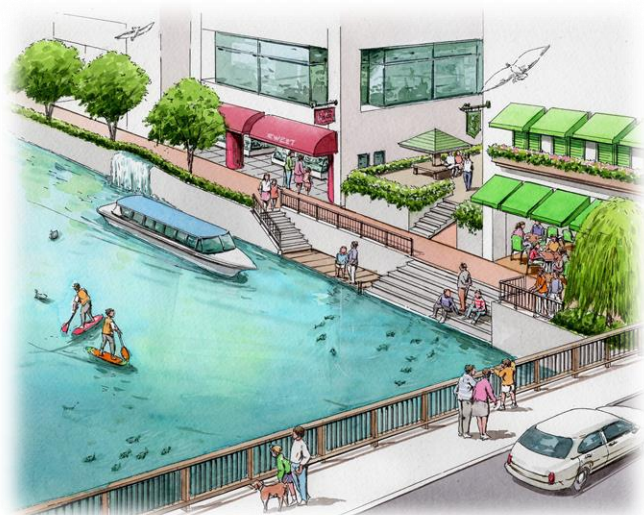
なお、この時間軸は一つの目安であり、各施策については可能な限り前倒しして実現することが求められる。

1 目指すべき新堀川と沿川の姿・まちづくりの方針

都市の発展には水辺の活用が重要であり、栄から名古屋港までつながる貴重な都心部の川であることから、新堀川及び沿川について、以下のようなまちづくりの方針を立てる。

■方針1 水辺に憩うまち

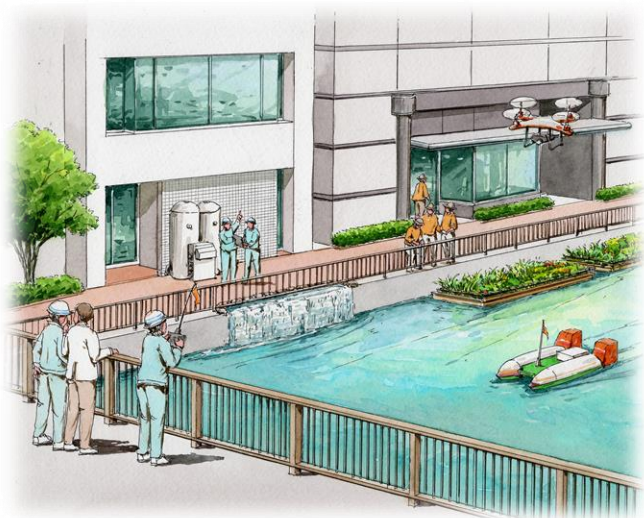
都心においてまちに開かれた水辺を創出し、周辺住民や企業をはじめ、すべての人が新堀川への関心を高めることで、水辺に立ち寄ることを目的に訪れたいくなるにぎわいある沿川となる。



Bringing・Beside

■方針2 産業で高めあうまち

挑戦の場としての新堀川活用促進などにより、沿川企業や新たな国内外の多様な企業が最先端技術を持ち寄り、ビジネス交流が活発に行われることで、相互に高めあい、革新的・先進的な取り組みから多様性が生まれる沿川となる。



Born・Business

“B”eyond 新堀川

Bringing・**Beside** 人々を水辺のそばに導き

Born・**Business** 産業が生まれ高めあい

Brightness 個々が磨き上げた魅力を

Bond 名古屋の南北につなぐ川

■方針3 個々が魅力を放つまち

各エリアが元々持っている地域資源や歴史とその資産、豊かな自然などの強みを伸ばし、点在していた個性をまちの魅力として磨き上げることで、エリアごとの楽しみ方を提供する沿川となる。



Brightness

■方針4 名古屋の南北軸をつなぐ川

都心部である栄からの流れを持つ貴重な水辺であり、おもてなし機能向上等で沿川の回遊性を高めることが、各エリアの“魅力”と“にぎわい”に相乗的な拡がりをもたらす「名古屋の南北軸」を担う川となる。



Bond

2 まちづくりの方針並びに施策一覧

注) 一覧表中のエリア表記は、「○：実施すべきエリア」「◎：優先して取り組むべきエリア」を示す。

方針1 水辺に憩うまち

1-1 歩いて楽しい親しみある水辺の創出

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上流	中流	下流	
重要	① 船着場・親水空間の整備	中期	◎	○		31
重要	② 遊歩道整備・緑化の促進	短期	○	○	○	31
	③ 商店・飲食店などの盛り上げ・誘致	短期	○	○	○	31

1-2 沿川住民や企業と共に進めるまちづくりの促進

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上流	中流	下流	
	④ まちづくりの枠組みづくり	短期	◎	◎	◎	31
重要	⑤ 水辺関連の活動団体との連携促進	短期			○	32
	⑥ 認知度向上のための勉強会・シンポジウム開催	短期	○	○	○	32
	⑦ 小中学生対象の体験乗船会等の開催	短期	○	○	○	32

方針2 産業で高めあうまち

2-1 先進的なビジネスモデルの展開

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上流	中流	下流	
重要	⑧ 沿川企業連携による共同事業の創出	中期	○	○		32
	⑨ 就業者のための共同アメニティ空間整備	中期	○	○		32
	⑩ MICEとの連携	短期	○	○	○	33

2-2 新事業創出のフィールド化

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上 流	中 流	下 流	
重要	⑪ 川を活用した最先端技術の実証実験フィールド化	短期	◎	◎	○	33
	⑫ 新規ビジネスや企業進出のための支援・規制緩和の実施	中期	○	○		33

方針3 個々が魅力を放つまち

3-1 利用状況に合う戦略の策定

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上 流	中 流	下 流	
	⑬ 地域特性に応じたまちづくりのルールづくり	中期	○	○	○	33

3-2 都心から生まれる新しさを感じられる上流

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上 流	中 流	下 流	
重要	⑭ 栄地区・大須地区・久屋大通公園との連携・動線整備	中期	○			34
	⑮ 堀留水処理センター跡地をにぎわいスポットとして再開発	長期	○			34

3-3 名古屋の産業を支える中流

	施 策	実施 時期 の目安	エリア			参照頁
			上 流	中 流	下 流	
重要	⑯ 沿川企業が連携した産業観光の推進	短期		○		34
	⑰ 神宮東公園の再整備による魅力創出	中期		○		34

3-4 歴史文化に触れられる下流

施策	実施時期 の目安	エリア			参照頁
		上流	中流	下流	
⑱ 熱田神宮を核とした回遊空間づくり	中期			○	34
⑲ 宮の渡し周辺の活性化	長期			○	34
重要 ⑳ 交通拠点と歴史的観光資源との連携・動線整備	中期			○	34

方針4 名古屋の南北軸をつなぐ川

4-1 都心との回遊性向上のための整備

施策	実施時期 の目安	エリア			参照頁
		上流	中流	下流	
重要 ㉑ エリアを結ぶ舟運の導入	長期	○	○	○	35
重要 ㉒ 川に近づける公共交通機関の強化	中期	○	○	○	35
㉓ 来訪者のための駐車場整備	長期		○		35
㉔ コミュニティサイクルの導入（ステーションの設置）	短期	○	○	○	35

4-2 多様な来訪者へのおもてなしの充実

施策	実施時期 の目安	エリア			参照頁
		上流	中流	下流	
㉕ 新堀川の魅力発信の強化	短期	○	○	○	35
重要 ㉖ 観光案内機能の強化	短期	◎	○	○	36
㉗ 休憩スポットの整備	中期	○	○	○	36
㉘ 魅力を巡る周回ルートや各種ツーリズムの開発	中期	○	○	○	36
㉙ インクルーシブデザインの適用	中期	○	○	○	36

3 方針ごとの施策内容

方針1 水辺に憩うまち

1-1 歩いて楽しい親しみある水辺の創出

流域全体を通して新堀川に触れる機会が少ない現状においては、都心部の貴重な水辺空間に親しめるよう環境の整備が必要である。近隣住民のみならず、名古屋市内外から水辺や自然を求めて人が訪れたいくなるよう、魅力あるウォークブルな水辺を創出するため、以下の施策を提言する。

重要

① 船着場・親水空間の整備-----中期 上・中流

高密度化・人工化が進む現代の都市環境において、オープンスペースの水辺空間を形成することは、まちと人々に潤いとゆとりを与える。川から各エリアへのアクセスを可能にする船着場、名古屋三川を視野に入れた水上モビリティや船着場を拠点とした水上アクティビティ（SUPなど）を整備する。また、周辺住民と来訪者を包括し、水辺景観による癒しを感じられる親水空間や水面に近づける場所を整備する。

なお、栄地区・大須地区・久屋大通公園との連続性を考慮し、上流エリアにおける先行整備が望まれる。

重要

② 遊歩道整備・緑化の促進-----短期 全域

立ち寄りたくなる水辺を目指し、都心のにぎわいを引き寄せられるよう遊歩道を整備する。また、水辺以外にも自然を求めて足を延ばせるよう、沿川の公園・街路との連続性を考慮した緑化を進める。

③ 商店・飲食店などの盛り上げ・誘致-----短期 全域

水辺で過ごす時間をより豊かにし、新堀川を訪れる目的にもなるよう、河岸に商店や飲食店・喫茶スペースを誘致する。また、既存の飲食店や喫茶スペースも水辺に面したオープンテラスの設置など、水辺空間を積極的に活用できるよう名古屋市の施策等により支援する。

1-2 沿川住民や企業と共に進めるまちづくりの促進

沿川の再開発を進めるには、沿川企業及び地域住民の協力が必要不可欠である。沿川企業の地域貢献は住職近接のポテンシャルをさらに高め、経済活性化につながるものであるため、様々なプレーヤーがビジョンを共有し、魅力的なまちづくりに取り組めるよう、また、沿川だけでなく名古屋市民や日本全国に注目されるよう、以下の施策を提言する。

④ まちづくりの枠組みづくり-----短期 全域

地域の住民や沿川企業が一体となってまちづくりを進められるよう、行政も参画した活動主体の枠組みづくりや新堀川の官民プラットフォーム組成を行う。

重要

⑤ 水辺関連の活動団体との連携促進-----短期 下流

川に関わるまちづくりや活動をする名古屋三川のまちづくり団体・協議会と連携し、都心部の水辺空間向上を目指した情報交換の機会を創出する。

特に、堀川との結節点(宮の渡し)付近で活動している熱田湊まちづくり協議会は、名古屋市と連携して「熱田湊まちづくりビジョン 2021」を策定し、宮の渡し公園付近のまちづくりを進めているため連携が期待できる。

⑥ 認知度向上のための勉強会・シンポジウム開催-----短期 全域

これからの沿川まちづくりの足掛かりとなるよう、沿川住民・企業や関係者等を対象とした、新堀川の現状に対する理解を促す勉強会やシンポジウムを開催する。

⑦ 小中学生対象の体験乗船会等の開催-----短期 全域

時間のかかる沿川再開発において、次世代の協力を欠かすことはできない。新堀川の現状を直接目にして学び、それを各家庭の話題にすることで沿川住民の関心を高めることを目的とした、沿川の小学生が対象の体験乗船会、モノづくりの伝承・学習会を開催する。

方針2 産業で高めあうまち

2-1 先進的なビジネスモデルの展開

すでにビジネスの集積が見られる沿川においては、産業による盛り上げが重要であり、エリア内でのより一層活発な企業活動の展開が期待される。さらに、2024年には、スタートアップの創出・育成・展開・世界進出への流れをつくる中核支援拠点「STATION Ai」が沿川エリア内の鶴舞公園隣接地に完成する予定であり、高いビジネスマインドを持つベンチャー企業の進出が想定される。既存の沿川企業とビジネス交流を図ることがまちの活性化に繋がるため、以下の施策を提言する。

重要

⑧ 沿川企業連携による共同事業の創出-----中期 上・中流

SDGsをはじめとする社会課題は、一事業者だけの取り組みでは解決が困難なものが多い。持続可能な社会実現のためにも、名古屋の産業を担う沿川企業のマッチングによる活性化を促し、共通の社会課題に対して共同で取り組む事業の創出を促す。

⑨ 就業者のための共同アメニティ空間整備-----中期 上・中流

沿川の中小企業においては、自社のみでは休憩や歓談、食事スペースなど、快適な環境を十分に確保できない場合も多い。沿川で働く人々のための福利厚生の一環として、共同で利用できる施設等のアメニティ空間を整備する。これにより企業価値の向上や、新規人材確保のためのアピールポイント、さらには企業間の情報交換の場としても機能することが期待される。

⑩ MICEとの連携 -----短期 全域

ベンチャー企業の進出や新規事業の創出などによって、沿川へのビジネストラベルの機会が増加すると予想されるため、MICE※との連携をはかる。

※企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

2-2 新事業創出のフィールド化

都心 (栄地区) からアクセスしやすい水辺という強みを活かし、新しい取り組みのフィールドとして川そのものを活用し、新堀川からイノベーションを生み出せるよう、以下の施策を提言する。



⑪ 川を活用した最先端技術の実証実験フィールド化 -----短期 全域

企業価値の向上や企業PRとして、水質浄化や水上交通 (新交通システム、CO₂ 排出抑制)、ドローンを用いた物流など、最先端技術の実証実験に取り組みやすくなるよう、水域や川の上空間の活用を促進する。

なお、沿川に様々な企業が立地しており、また、水質的な課題も生じている上流エリア・中流エリアは、各種実証実験のフィールドとして特に有用であり、PR性も高いと思われる。

⑫ 新規ビジネスや企業進出のための支援・規制緩和の実施 -----中期 上・中流

革新的・先進的な技術を持ったベンチャー企業が「STATION Ai」を皮切りに沿川エリアへ進出できるよう補助金等の支援を充実させる。また、既存の沿川企業も含めて、技術の新しい取り組みに着手しやすいよう規制緩和を行う。

方針3 個々が魅力を放つまち

3-1 利用状況に合う戦略の策定

沿川エリアは様々な特色を持っており、エリアごとの強みを活かしたまちづくりの方針を打ち出すことが重要となる。各エリアの強みから、それぞれが「都心から生まれる新しさを感じられる上流」・「名古屋の産業を支える中流」・「歴史文化に触れられる下流」となっていくことを目指し、以下の施策を提言する。

⑬ 地域特性に応じたまちづくりのルールづくり -----中期 全域

水辺を身近に感じやすく雰囲気を保つための建物の規制や、にぎわいづくりを目的としたマンション低層階の商業店舗化、歴史的建築物周辺での景観維持、住む人の属性に配慮したインクルーシブルなまちづくりなど、地域特性に応じたルールづくりを行政参画のもと、地元主導で検討する。

3-2 都心から生まれる新しさを感じられる上流

重要

⑭ 栄地区・大須地区・久屋大通公園との連携・動線整備-----中期 上流

上流区間は、老若男女のにぎわいがある栄と大須地区の間に位置し、また、久屋大通公園からの延長線上に起点を持つ。これらの強みを活かし、川全体に都心で生まれる新しい文化やにぎわいを引き込むため、栄地区・大須地区・久屋大通公園から新堀川の起点部分へのアクセスを改善し、水辺への動線を整備する。

⑮ 堀留水処理センター跡地をにぎわいスポットとして再開発-----長期 上流

新堀川の起点であり、現在、廃止が予定されている堀留水処理センターの跡地を、水辺に親しめるにぎわいスポットとして再開発する。

3-3 名古屋の産業を支える中流

重要

⑯ 沿川企業が連携した産業観光の推進-----短期 中流

名古屋市内における多様な産業が集まる強みを活かし、市民だけでなく国内外の人が沿川企業のモノづくり技術に触れられる工場見学ツアーなど産業ツーリズムを展開する。

⑰ 神宮東公園の再整備による魅力創出-----中期 中流

神宮東公園は新堀川に近接する大規模な公園のひとつであり、更なる利活用が期待できる場所でもある。「名古屋市における魅力ある都市公園づくり」と連携し、モノづくり技術の伝承・学習の場、周辺住民や沿川企業者の健康づくりにつながる施設の設置や、先進技術を導入した防犯面強化等によって、誰でも利用しやすい憩いの場となるような魅力ある空間を創出する。

3-4 歴史文化に触れられる下流

⑱ 熱田神宮を核とした回遊空間づくり-----中期 下流

現在、駅前の再開発が進められており、市内屈指の観光スポットである熱田神宮のにぎわいを下流エリアで広く享受できるよう、歩いて楽しめるまちを創出し、歴史の余韻に浸れるノスタルジックな空間整備を行う。

⑲ 宮の渡し周辺の活性化-----長期 下流

宮の渡し周辺が「歴史を学べる観光スポット」となるよう、既存のまちづくり団体・協議会と連携してまちづくりを活性化する。

重要

⑳ 交通拠点と歴史的観光資源との連携・動線整備-----中期 下流

エリア内に点在する歴史ある観光資源を、個々のスポットだけで留めず、エリアとして楽しんでもらえるよう、各種交通拠点とスポット間の交通利便性を高め、動線を整備する。

方針4 名古屋の南北軸をつなぐ川

4-1 都心との回遊性向上のための整備

栄地区をはじめとする周辺エリアとのつながりを発展させ、エリアごとの魅力を連携することにより、新堀川沿川はもとより名古屋市内に広域的なシナジー効果が期待される。都心のにぎわいを南北に広がる各エリアへつなぎ、「人・もの・情報」の流動性を向上させるために、地理的特性を最大限活かした多様なモビリティの整備として、以下の施策を提言する。

重要 ⑲ エリアを結ぶ舟運の導入-----長期 全域

栄から上流・中流・下流エリアを縦貫し、さらにはベイエリアへのアクセスも強化すべく、民間（企業）による新堀川の舟運航路を整備する。また、沿川の住民や就業者の交通手段として定期運航化を目指す。

重要 ⑳ 川に近づける公共交通機関の強化-----中期 全域

沿川に整備された利便性の高い道路を活かし、川をまちに引き込めるよう、川への動線となる循環バス等の公共交通機関や自動運転バス等の次世代モビリティを新たに整備・強化する。

㉑ 来訪者のための駐車場整備-----長期 中流

沿川外からの来訪者が気軽に車で訪れることができるよう、川に立ち寄りやすいエリアの拠点に駐車場を整備する。

なお、現状においても沿川に空間的に余裕があると思われる中流エリアにおいては、比較的早期の整備が望まれる。

㉒ コミュニティサイクルの導入（ステーションの設置）-----短期 全域

民間（企業）によるコミュニティサイクルの導入に向け、拠点整備を行う。また、利便性・安全性向上のため、自転車専用レーンの整備を行う。

4-2 多様な来訪者へのおもてなしの充実

交流結節の要所である栄から南方向への玄関口として、多様な来訪者を迎え入れ、「名古屋の南北軸」となっていくために、“おもてなし機能”の向上や、沿川の魅力発信を行うことも重要であることから、以下の施策を提言する。

㉓ 新堀川の魅力発信の強化-----短期 全域

新堀川の地域特性を知ってもらうこと、また、沿川まちづくりの方向性や進捗を沿川内外、全国・世界に向けて発信することは、認知度の向上や地域ブランディングを図り、プレーヤーの拡大にも寄与すると考えられる。

そのために、民間のまちづくり団体・協議会や行政、沿川企業、地域住民それぞれがSNS等の活用によって、沿川まちづくりの様子や各種実証実験等、沿川の魅力を「#新堀川」によって積極的に情報発信していく。

重要

②⑥ 観光案内機能の強化 -----短期 全域

観光施設への多言語を用いた案内看板の設置、デジタルサイネージによるまちの情報発信、さらには国内外の来訪者に各エリアの地域資源を紹介するボランティアガイドの育成など、行政と民間（企業）が連携し、ハード・ソフトの両面から観光案内機能を強化する。

なお、栄地区・大須地区・久屋大通公園との連続性を考慮し、上流エリアにおいて先行的に取り組むことが、「きっかけづくり」として有効であると思われる。

②⑦ 休憩スポットの整備 -----中期 全域

観光資源の間を歩いて移動する来訪者のために、動線上に無料のベンチやトイレの設置、さらに、Wi-fi 環境を整えるなど、休憩スポットを整備する。

②⑧ 魅力を巡る周回ルートや各種ツーリズムの開発 -----中期 全域

沿川にある歴史・文化や産業などを、効率的・効果的に巡ることができるよう、各交通拠点と各地域資源をつなぐ観光周回ルートや、各種ツーリズムを開発する。

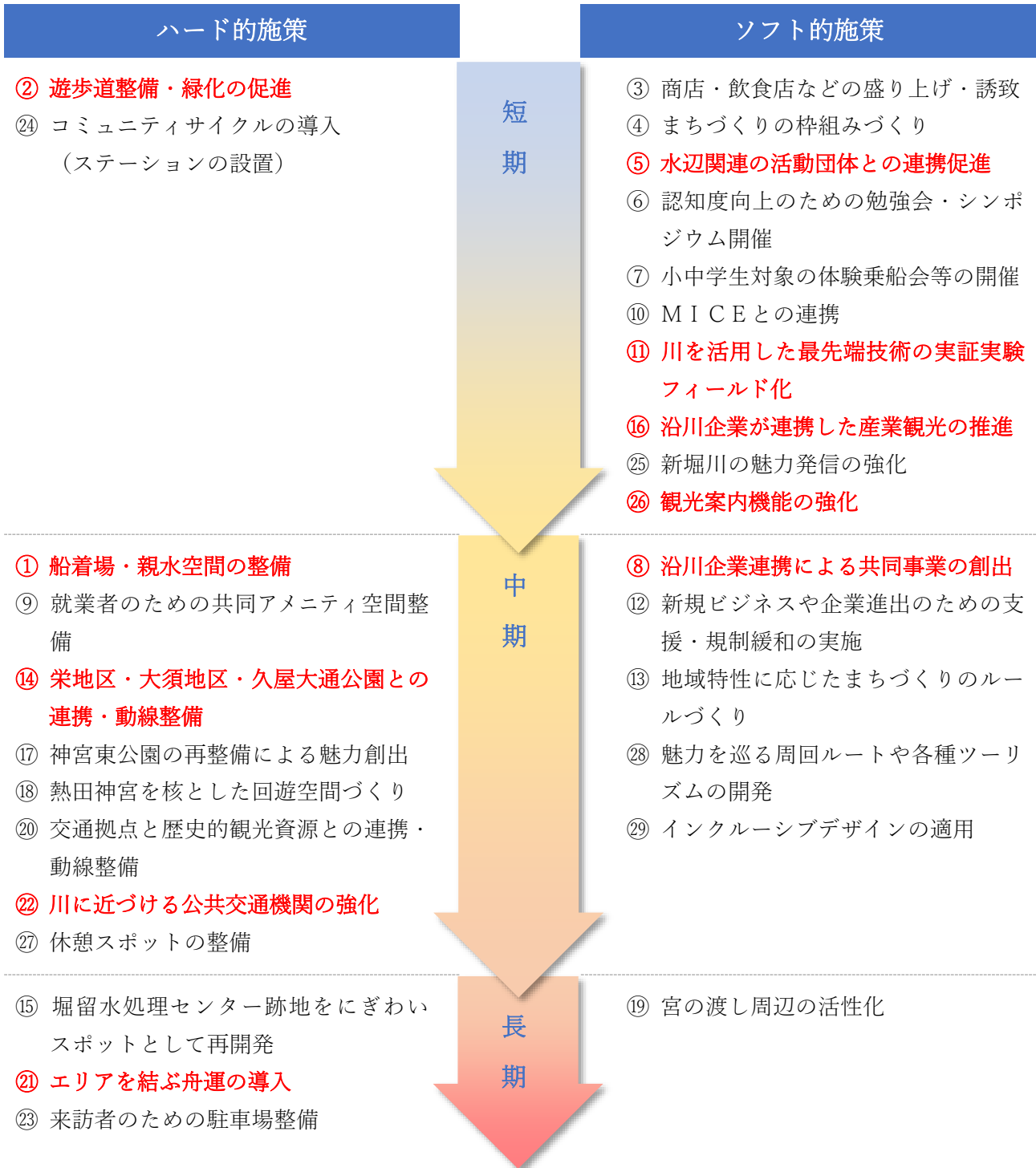
②⑨ インクルーシブデザインの適用 -----中期 全域

観光資源やにぎわいスポットには、国籍・宗教・性別など多様な人が来訪するため、すべての人を包括し、快適に過ごせるよう、公共空間・民間施設を問わず、案内や設備には積極的にインクルーシブデザイン※を適用する。

※性別や国籍・年齢・障がい者など、できるだけ多くのユーザーを包含し、かつ利益や顧客満足というビジネス目標に対して有効なデザイン

4 時系列別の施策一覧

(赤字：重要施策)



注) 短期・中期・長期の各期間における施策の表示順は、期間内における実施順位等を示すものではない。

おわりに

今回、名古屋商工会議所から新堀川に関する初めてのビジョンを取りまとめるにあたり、「“B”eyond 新堀川」というキャッチフレーズを掲げた。

これには、これまで堀川の陰に隠れた存在、「B面」のような立ち位置だった新堀川が、堀川・中川運河に遅れを取らないよう、4つの方針に関連する“B”から始まるキーワードで進化し、現状を越えていく新しい「新堀川」として生まれ変わってほしいという想いを込めた。

現状、新堀川が抱える問題は少なくないものではあるが、目指すべき新堀川の姿に向け、名商ももちろん取り組みを進めながら、国や行政に働きかけていきたい。行政には、沿川住民への新堀川に対するアンケートを実施する等、市民の声に耳を傾けて頂きたい。まずは、こうした新堀川への関心を高める機運作りが、行政や市民の力を一体にした水辺への取り組み推進と実現には必要である。

新堀川へこれまで以上に生き物が集まり、緑が充実していくことは、生物多様性やカーボンニュートラルというSDGsへの取り組みにもつながるものであり、魅力ある水辺として人々に期待感や安心感を持ってもらうためにも、行政には並行して新堀川の浄化方針に基づく取り組みをしっかりと進めて頂きたい。

今後、行政や沿川企業、住民とともに一步一步進めていく改善と進化の姿を、名古屋市全体で見守り、「#新堀川」というハッシュタグを用いながらSNS等で記録すると共に、広く魅力が発信されるよう促していきたい。

名古屋市では2022年（令和4年）度に地下鉄の駅名変更が予定されており、市内屈指の観光スポットへの案内を意識した「名古屋城駅（現：市役所駅）」、「熱田神宮西駅（現：神宮西駅）」、「熱田神宮伝馬町駅（現：伝馬町駅）」が新たな名前となる。

名古屋市の南北に位置するこの3駅のそばには、“名古屋三川”が流れており、重要な観光資源である名古屋城～熱田神宮～ベイエリアという南北方向のつながりには“名古屋三川”という水辺の存在を看過することはできないことがわかる。

そのため、新堀川だけでなく“名古屋三川”が一体となって当地の盛り上げの一翼を担い、さらには都心部の貴重な水辺空間として、名古屋に潤いとゆとりを与える存在になっていくことを期待したい。

参考資料

1	新堀川沿川における関連計画	40
1.1	新堀川の浄化方針【2021年(令和3年)3月策定】	40
1.2	栄地区の開発状況	41
1.3	久屋大通(南エリア)再整備の方向性(案)【2021年(令和3年)3月公表】	42
1.4	金山駅周辺まちづくり構想	43
1.5	大喜新町地区計画	44
1.6	熱田神宮駅前地区まちづくり構想【2020年(令和2年)7月策定】	45
1.7	名古屋市SDGs未来都市計画【2020年(令和2年)9月改定】	46
1.8	STATION Aiプロジェクト	47
1.9	名古屋市における魅力ある都市公園づくり	48
1.10	MIZBERING(ミズベリング)	49
1.11	熱田湊まちづくりビジョン2021(中間案)【2021年(令和3年)4月決議】	50
2	他地域の事例	51
2.1	渋谷川(東京都渋谷区)	51
2.2	日本橋川(東京都中央区)	52
2.3	道頓堀川(大阪市中央区)	53
3	活動報告	54
4	新堀川将来ビジョン検討会議 委員名簿	55

1 新堀川沿川における関連計画

1.1 新堀川の浄化方針 【2021年(令和3年)3月策定】

(概要)

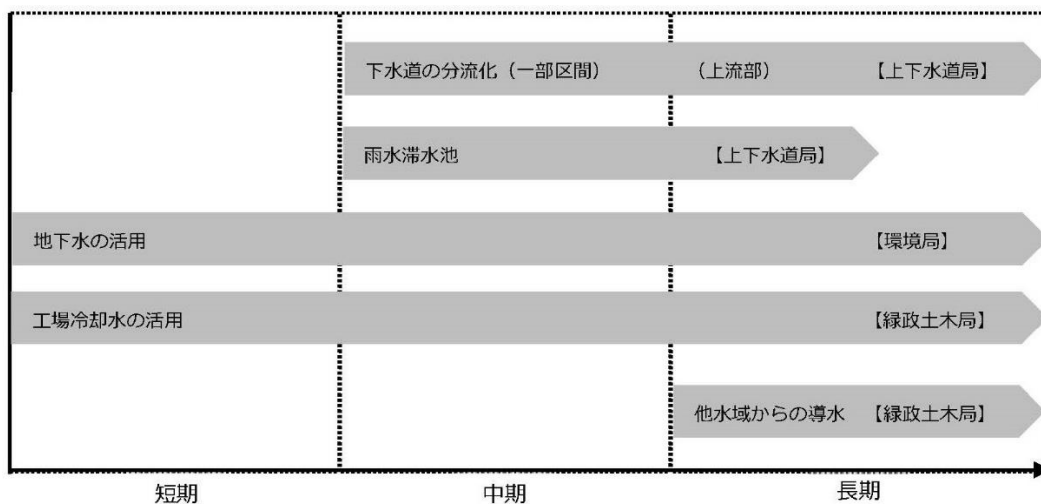
名古屋市は、新堀川の水環境改善に向けて、有識者から河川や水質などに関する意見を伺いながら、関係局（緑政土木局、環境局、上下水道局）が連携して様々な水質浄化策について浄化効果等を検証し、今後の浄化方針を取りまとめた。

(今後の浄化方針)

- ① 水環境改善の根源対策として、汚濁負荷(有機物)を削減できる下水道の分流化をできる限り広域で進める。また、下水道の分流化を目指す中で、雨水滞水池の整備など早期に効果を発揮する対策を併せて進める。
- ② 短期対策として、底層 DO*の改善が期待できる地下水や工場冷却水を放流する。
- ③ ①②の対策を着実に進め、継続的に水質改善効果を確認する。また、さらなる水環境改善に向けて、取水先の水質改善に応じて他水域からの導水に取り組む。

※DO：溶存酸素量

< (参考) 想定スケジュール >



短期：1～5年 中期：5～10年 長期：10年以上

有識者一覧 (五十音順、敬称略、役職等は在職時)

氏名	役職等	専門分野
だいたう けんじ 大東 憲二	大同大学 情報学部 教授	環境地盤工学、底質学
とみなが あきひろ 富永 晃宏	名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	河川工学、水理学
まつお なおき 松尾 直規	中部大学 名誉教授	河川工学、環境水理学
やぎ あきひこ 八木 明彦	愛知工業大学 土木工学科 客員教授	陸水学
よしだ なおこ 吉田 奈央子	名古屋工業大学大学院 工学研究科 准教授	環境微生物学

資料：名古屋市

1.2 栄地区の開発状況

(概要)

名古屋市は、リニア中央新幹線開業に向けて、名古屋都心部のさらなる魅力向上の一環として、栄地区を魅力あるまちへと再生し、持続的に発展させるための基本方針として、2013年（平成25年）6月に「栄地区グランドビジョン—さかえ魅力向上方針—」を策定。

このビジョンを市民や栄地区のまちづくり関係者が共有し、それぞれの役割と相互の協力により取り組みを進めている。

(栄地区の開発状況)



資料：名古屋市

1.3 久屋大通(南エリア)再整備の方向性(案) 【2021年(令和3年)3月公表】

(概要)

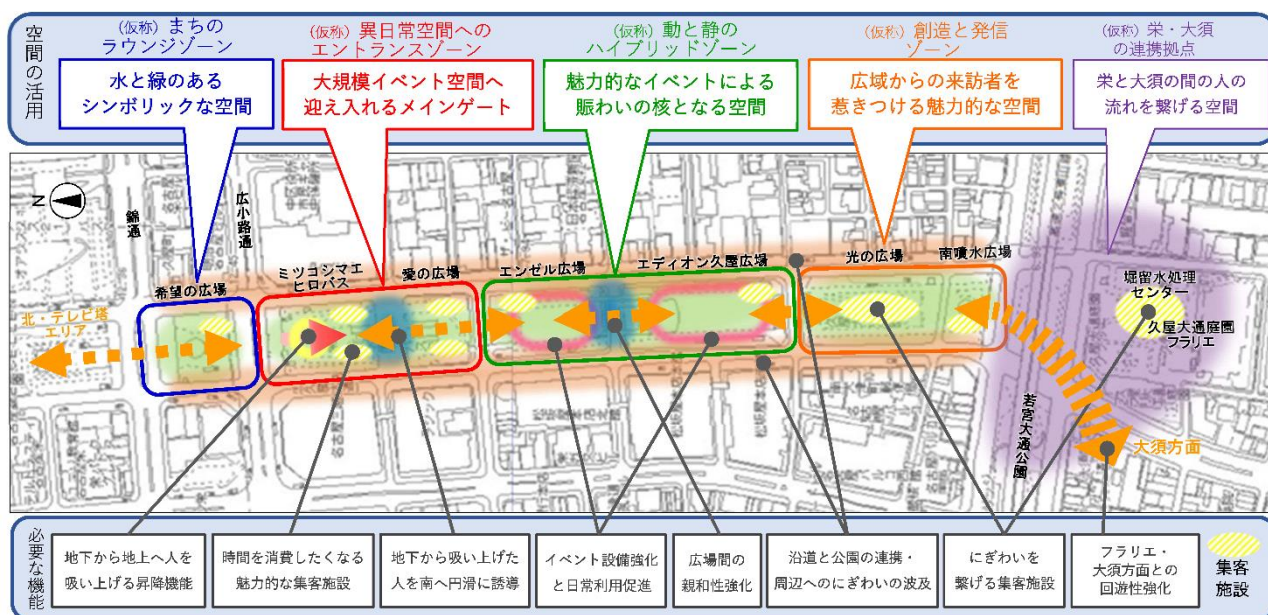
名古屋市は、栄地区グランドビジョンに基づき、久屋大通の再生に取り組んでいる。錦通から若宮大通までの南エリアについては、久屋大通再生有識者懇談会の提言「久屋大通のあり方（南エリア部分）」を踏まえ、再整備の方向性（案）を2021年（令和3年）3月に公表した。

(再整備コンセプト)

「新たな創造が生まれるウォークブルタウンのコア」

～多様な人が集まる刺激と居心地～

(空間活用と必要な機能)



○ (仮称) 創造と発信ゾーン + (仮称) 栄・大須の連携拠点

- これまで久屋大通を訪れていた人(イベント目的を含む)だけでなく、広域(国内外)からの来訪者を惹きつけられるような魅力的な機能を持たせ、新たな人々が訪れたいような仕掛けづくりをしていき、栄地区のブランディング強化(知名度向上)の一端を担う。
- 名古屋を代表する観光地であり、多くの人で賑わう大須地区や久屋大通庭園フラリエとの連続性を強化し、双方に人が行き来することでまちの回遊性を高める。



資料) 名古屋市ホームページより抜粋・要約

1.4 金山駅周辺まちづくり構想

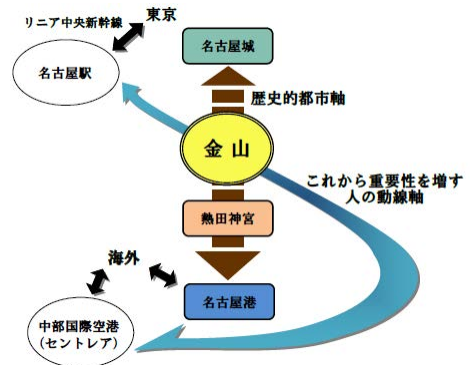
(概要)

名古屋市は、2017年（平成29年）3月に金山駅周辺まちづくり構想を策定し、構想の実現に向け、基本方針に基づく施策の展開に取り組んでいる。駅北側の市有地を中心とした整備にあたっては、官民連携手法を用いて進める方向で検討中である。

金山駅周辺まちづくり構想

交通拠点から交流拠点へ

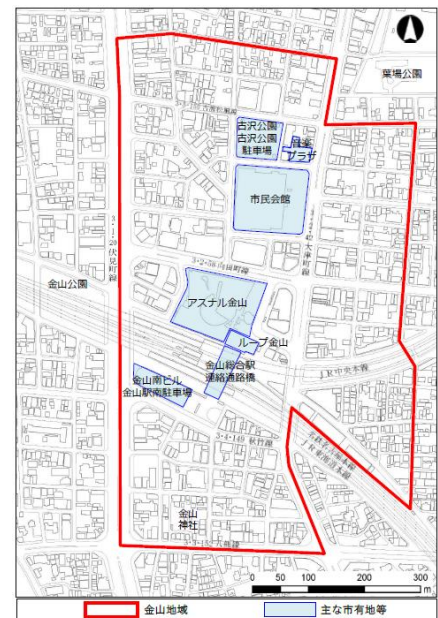
～にぎわい・文化・芸術の継承と新たな役割を求めて～



構想の趣旨

(基本方針)

- (1) にぎわいとるおいの継承・発展
 - ① 都市機能の集積、② 商業機能等の再編、
 - ③ 金山地域内外の回遊性の向上
- (2) 文化芸術や創造等拠点の集客性向上
 - ① 市民会館の機能更新、② まちかどからの文化・芸術の発信、
 - ③ 金山南ビルの活用
- (3) 地域防災力の強化
 - ① 安全確保施設の充実、② 防災意識の向上、
 - ③ 広域避難場所の活用
- (4) 交通結節点の機能強化
 - ① 乗り継ぎ利便性の確保、② 情報発信機能の充実、
 - ③ 来街者向けサービスの提供



構想の対象範囲



駅北側には緑豊かな広いオープンスペースが設けられ交流拠点の中心として機能しています



オープンカフェなど、家族連れや子ども達が楽しめる仕掛けの展開が想定されます

資料) 名古屋市ホームページより抜粋・要約

だいぎしんちょう

1.5 大喜新町地区計画

(概要)

中電不動産が旧中部電力社宅跡地約2ヘクタール(未利用地)を商業・医療・福祉施設と共同住宅からなるエリアに再開発する考えを示し、都市計画審議会に諮った後、本年度内の計画決定・告示を目指す見通し。

(大喜新町地区計画の概要)

名古屋市のまちづくりの基本方針である「名古屋市都市計画マスタープラン2030」において「駅そば市街地」に位置付けられ、大規模な社宅跡地の土地利用転換にあたり、必要となる都市機能の導入と都市基盤の整備により、周辺環境と調和した、地域の暮らしを支え、安心・安全に貢献し、交流を育む良好な都市環境の形成を図ることが可能な計画となっている。

南側：商業・医療・福祉地区 北側・東側：住宅地区 として整備。

公共施設として、歩行者用通路など歩道4路線や、広場、緑地を設置予定。

開発コンセプト：地域の暮らしを支え、ゆたかにする多世代共生のまちづくり

① 地域の暮らしを支える日常生活拠点の形成

瑞穂区内や周辺からのアクセスのよいバス停に近接した大規模な土地を活かし、ワンストップで日常購買（マルシェ型）、医療、高齢者福祉、子育て支援などのサービスが受けられる拠点をつくる。

② 安心・安全な地域づくりへの貢献

災害時に避難しやすい地域動線や小学校と連携した避難機能の強化、安全な通学路の確保など、防災・交通安全・防犯など、安心・安全な地域づくりに貢献する。

③ 多世代が住まい、交流し、何世代も住み続けたい環境づくり

若年・子育て世代からシニア世代まで多世代が住まえる住宅や多世代の暮らしを支える施設、世代間交流を育む場や機会の創出などによって、瑞穂区の魅力が輝くまちづくりを推進する。



資料) 建通新聞 (中部 2021/7/15) および名古屋市公報 (R3.9.15) より

1.6 熱田神宮駅前地区まちづくり構想 【2020年(令和2年)7月策定】

(概要)

地元有志による地区の活性化に向け、地元の老舗企業やNPO、大学が推進役となり、商店街や行政と共に2018年(平成30年)4月に「熱田神宮駅前地区まちづくり協議会」を発足。名古屋市未利用地活用事業を推進し、2020年(令和2年)7月に「熱田神宮駅前地区まちづくり構想」を策定。

熱田神宮をはじめとする歴史観光スポットとしての価値を最大限に活かし、門前町のにぎわいを創出すると共に、安心・安全な住環境の整備が提案された。

(目指すまちの将来像)

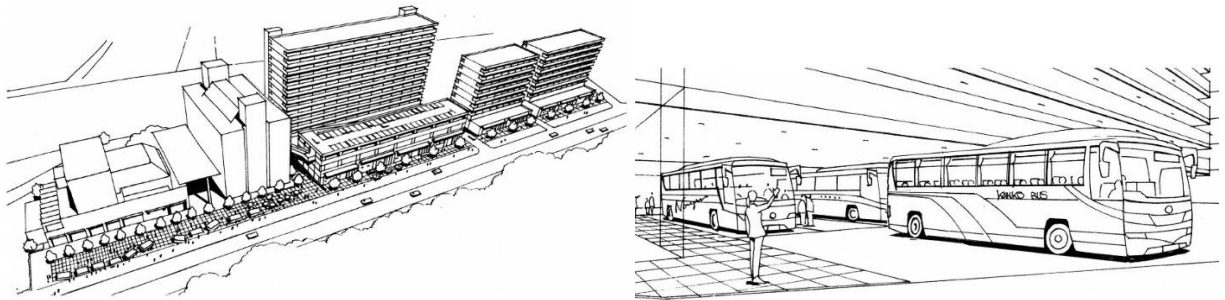
「年間700万人もの参拝者を迎える熱田神宮にふさわしい門前町を目指して」

(基本方針)

基本方針① 「観光都市ナゴヤにふさわしい門前町の構築」

- ・名鉄神宮前駅西地区再開発との連携・補完
- ・「神宮小路」の保全・活用
- ・空きビル空き店舗のリノベーションによる再生
- ・大型観光バスの駐車場確保と大災害時でのバックヤード機能

基本方針② 「住みたいまち・住みやすいまち—耐震化・不燃化を念頭に—」



(まちづくりの実現に向けて)

- ・権利関係者主体によるビジョンづくりの継続と再開発計画に向けての議論
- ・熱田区役所南側市有地活用事業の展開
- ・「宮の渡し・大瀬子地区まちづくり協議会」との連携→回遊性の向上に向けて
- ・NPO団体、商店街等による地域まちづくり活動のさらなる推進



資料：名古屋市ホームページより抜粋・要約

1.7 名古屋市SDGs未来都市計画 【2020年(令和2年)9月改定】

(概要)

名古屋市は、2019年(令和元年)7月に内閣府より、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた優れた取り組みを提案する自治体「SDGs未来都市」に選定され、名古屋市総合計画2023の内容を踏まえ、2030年のあるべき姿やその実現に向けた取り組みをまとめた「名古屋市SDGs未来都市計画」を策定した。

名古屋市は「SDGs未来都市」として、誰一人取り残さない、経済・社会・環境が調和した持続可能で強靱な都市の構築に取り組んでいる。

SDGs未来都市 ～世界に冠たる「NAGOYA」～ の実現

経済	<p>【課題】 リニア時代を迎える名古屋経済の持続的な発展</p> <p>【取組】 「イノベーション戦略」の推進 中小企業のイノベーション創出の促進やスタートアップの支援、MICEの推進など、新たな価値の創出に取り組んでいる。</p>
社会	<p>【課題】 国際的な都市間競争を勝ち抜く交流拠点都市の形成</p> <p>【取組】 「都市機能強化戦略」の推進 最先端モビリティ都市の実現に向けた取組やリニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺のまちづくりなど、大交流を支える都市機能の強化に取り組んでいる。</p>
環境	<p>【課題】 低炭素都市・自然共生都市の実現</p> <p>【取組】 「環境都市推進戦略」の推進 低炭素なライフスタイル・ビジネススタイルへの転換の促進、緑に親しめる環境づくりや生物多様性の保全など、環境都市の推進に取り組んでいる。</p>



資料：名古屋市ホームページより抜粋・要約

1.8 STATION Ai プロジェクト

(概要)

愛知県は世界最高クラスの海外スタートアップ支援機関・大学との連携を通じて、世界最高品質のスタートアップ支援プログラム等をワンストップ・ワンルーフで提供、ニューリアリティ対応型の世界初・世界最高レベルのスタートアップの中核支援拠点「STATION Ai」を設置（2024年（令和6年）オープン予定）。STATION Aiプロジェクトとして、国内外のスタートアップ・エコシステムのネットワークを融合し、国際的なイノベーション創出拠点の形成を図るために実施しているスタートアップ支援施策全般を指している。

(事業計画地)

名古屋市昭和区鶴舞一丁目 201,202,203 及び 204

(コンセプト)

- ・この地域の優秀なスタートアップを創出育成し、海外展開を促すとともに、世界から有力なスタートアップを呼び込むことで優秀な人材を集める。
- ・スタートアップと地域のモノづくり企業等の交流を図ることにより、新たな総合的な拠点となることを目指す。



資料 AICHI-STARTUP ホームページ
<https://www.aichi-startup.jp/>

1.9 名古屋市中における魅力ある都市公園づくり

(概要)

緑あふれる良好な都市環境の形成を図り、市民の健康で快適な生活を確保することを目指すとともに、歴史・文化を活かし、観光振興の拠点とするなど、魅力ある都市公園の整備及び再整備を行う。

(計画名称)

名古屋市中における魅力ある都市公園づくり

(計画期間)

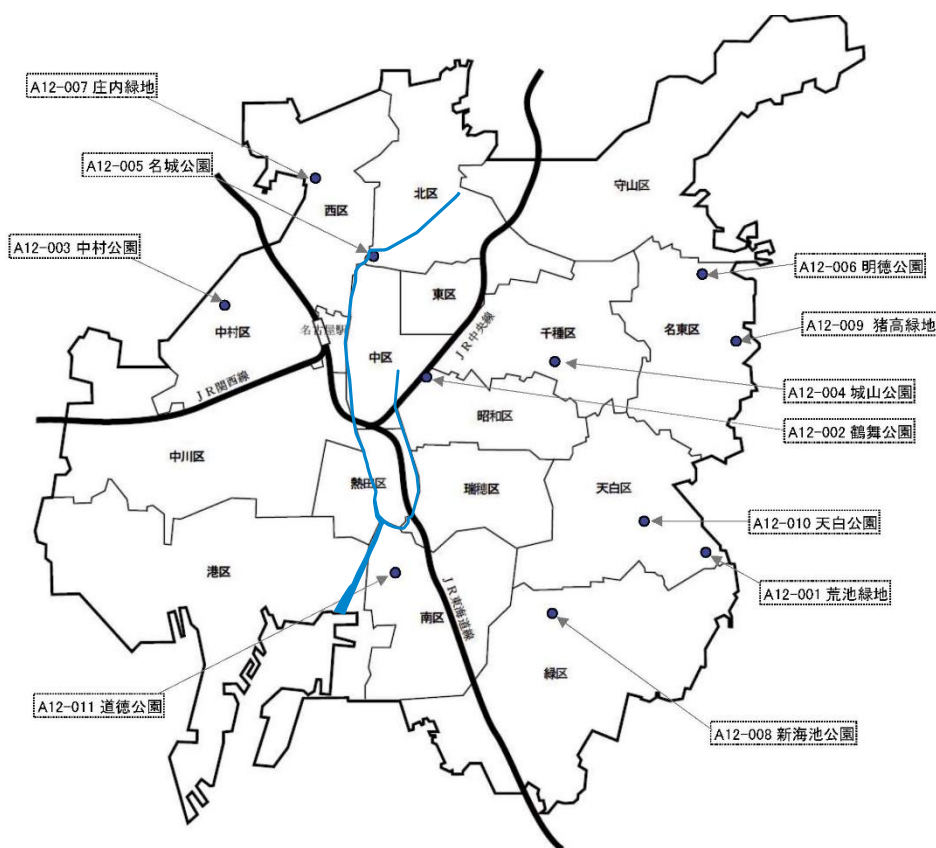
2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）（5年間）

(計画の成果目標)

- ・1人当たりの都市公園面積を7.00平方メートルから、7.05平方メートルに増加
- ・整備及び再整備する都市公園の来園者満足度調査における来園者満足度で、「満足」・「やや満足」の比率を35%から40%に増加
- ・機能再編をおこなった都市公園の整備率を31%から56%に増加

(主な事業)

荒池緑地、鶴舞公園、中村公園、城山公園、名城公園、明德公園、庄内緑地、新海池公園、猪高緑地、天白公園、道徳公園、名古屋市都市公園ストック再編事業



資料：名古屋市のホームページより抜粋・要約

1.10 MIZBERING (ミズベリング)

(概要)

国土交通省は防災・減災対策や社会資本の老朽化対策と一体となって、地域を代表する川と周辺の街並みが一体となって美しく風格のある空間を形成することを目的に、3つの基本コンセプトに基づき、水辺とまちの未来のかたちをデザインし、持続可能な未来を創造する「水辺とまちの未来創造プロジェクト」を推進している。

<水辺とまちの未来創造プロジェクトの3つのコンセプト>

- ① まちにある川や水辺空間の賢い利用
- ② 民間企業等の民間活力の積極的な参画
- ③ 市民や民間を巻き込んだソーシャルデザイン



ミズベリングは、この3つの基本コンセプトに従い、新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクト。水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントへの取り組みである。

- ・水辺を楽しむ人
- ・水辺で街を変える人
- ・水辺で新しいビジネスを作る人 **を増やす**



(ミズベリング 5つのアクション)

- ① つなごう：「水辺の未来」を考える人がつながれば、大きなムーブメントが始まるはずだ
- ② かたろう：「水辺の可能性」をみんなで語れば、思いも寄らないアイデアが浮かぶはずだ
- ③ ためそう：「水辺でのチャレンジ」が増えていけば、世の中はもっと水辺に注目するはずだ
- ④ つくろう：「水辺を通した街づくり」が進めば、日本の街は世界がうらやむ街になるはずだ
- ⑤ 育てよう：「水辺での暮らし」をみんなで育てていけば、人生はもっと豊かになるはずだ

(取り組みの一例)

- ミズベリング会議の実施 (市民団体・個人～民間企業・投資家～凝視絵・施設管理者のマッチング)
- 社会実験の実施 (官民協働、規制緩和)
- 水辺での各種イベントの実施 (にいわいづくり、観光や地域活性化)
- 民間主体の水辺利活用 (にぎわいづくり、景観形成、観光や地域活性化、規制緩和)

資料 以下より抜粋・要約
 国土交通省ホームページ
https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/mizube_p.html
 国土交通省中部地方整備局河川部ホームページ
<https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/mizbering/mizube02.html>
 ミズベリング事務局ホームページ <https://mizbering.jp/>

1.11 熱田湊まちづくりビジョン2021(中間案)[2021年(令和3年)4月決議]

熱田湊まちづくり協議会で決議されたこのビジョンでは、人口減少・少子高齢化の進行により、まちの活力低下が危惧される「宮の渡し・大瀬子地区」を対象に、地域住民、まちづくりに関わる諸団体の共通ビジョンを定めたものである。今後このビジョンを「熱田の誇りを次世代につなぐ湊まちづくり」として、周知と理解を深め実効性を高めて行かれるものである。

- **熱田プライドの醸成と継承**
 - 史実や古写真・資料等のアーカイブ化
 - 歴史文化を伝える案内看板の設置
 - 東浜御殿、西浜御殿の史実の継承
 - まち案内ができるガイドの育成
 - こども達に熱田湊の歴史文化を紹介する活動実施
 - 民間土地・建物を活用した情報交流の場の設置
- **居住環境・買い物環境の形成**
 - 空き家等を活用した事業者誘致
 - 買い物が不自由な人達のための送迎事業
- **観光まちづくりの推進～宮の渡し公園・大瀬子公園の活用とアクセス整備～**
 - 歴史文化をより感じられる宮の渡し公園、大瀬子エリアの再生
 - 熱田湊を体感できるビジターセンターの整備
 - 堀川沿川の歩行者空間の連続化
 - 熱田神宮から宮の渡し公園への高齢者・障がい者向け歩行者誘導の改善
 - 来訪者向け駐車場の整備
 - 水・陸の公共アクセス向上
- **地域・民間活力の活用**
 - 地元主体のエリアマネジメントを担う組織の構築と拠点整備
 - 民間資本の導入検討



大瀬子公園の再整備イメージ



宮の渡し公園の再生整備イメージ

資料 白鳥学区連絡協議会ホームページより抜粋・要約

2 他地域の事例

2.1 渋谷川（東京都渋谷区）

【川の概要】

渋谷駅南方から天現寺橋までの2.4kmを流れる二級河川であり、天現寺橋より筈川が合流し古川と名称を変え河口まで至る。渋谷川では1986年（昭和61年）から、老朽化した護岸を包み込む形でコンクリート護岸による河川改修が行われて来た。一方、渋谷エリアは、ターミナル駅として、また、映画館やギャラリーを数多く有する文化発信地として栄え、若者のファッションや文化の情報発信地としての地位も確立している。

【川づくり・まちづくりの概要】

渋谷エリアでは、ほかの街にはないオンリーワンの強み活かし、まちの特徴を最大限に活かし、「日本一訪れたい街」とすることを目指して、「渋谷スクランブルスクエア」「渋谷ヒカリエ」など、各種再開発が進められてきている。こういった中、旧東横線渋谷駅のホームおよび線路跡地等を再開発した「渋谷ストリーム」の整備（2018年（平成30年）9月開業）に合わせ、渋谷川では官民連携により、「潤いとにぎわいの創出」を目的に水辺空間の再生・整備が進められている。

【関連する主な取り組み内容】

○ 清流復活：壁泉（水景施設）の整備

水量が減少している河川等に下水道高度処理水等を活用し身近に親しめる水辺空間をよみがえらせる事業として、渋谷ストリームに面した護岸に「壁泉」と呼ばれる人工の滝を流し、来街者の目を楽しませる水景を演出している。



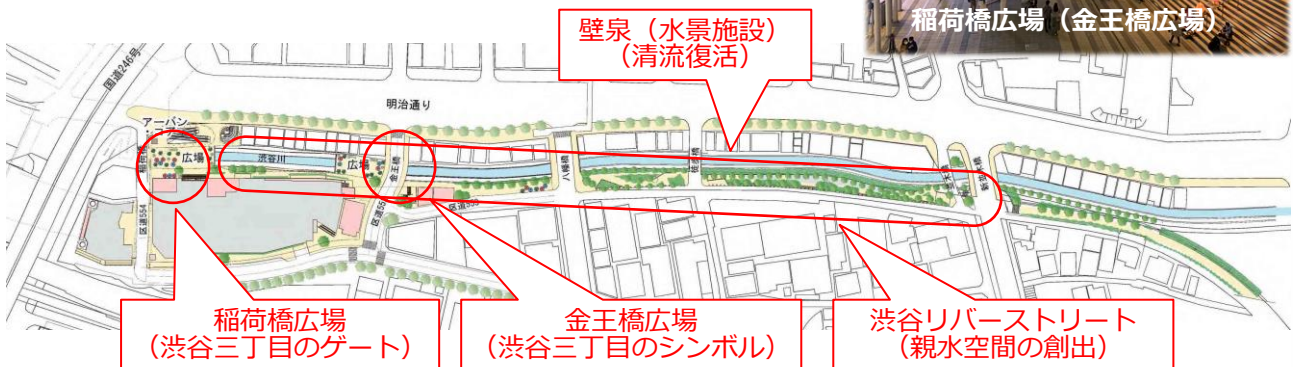
渋谷リバーストリート・壁泉

○ 広場・親水空間の創出

渋谷駅や「渋谷ストリーム」を繋ぎ、渋谷三丁目のゲートとなる「稲荷橋広場」、シンボルとなる「金王橋広場」、渋谷から恵比寿・代官山へと続く水辺空間である「渋谷リバーストリート」等、にぎわいと憩いを生む空間整備とともに、イベントやマーケット等開催なども積極的に開催している。



稲荷橋広場（金王橋広場）



稲荷橋広場
(渋谷三丁目のゲート)

金王橋広場
(渋谷三丁目のシンボル)

渋谷リバーストリート
(親水空間の創出)

資料) 渋谷区ホームページ等を抜粋・要約

2.2 日本橋川（東京都中央区）

【川の概要】

神田川の小石川橋から分岐し、ほぼ全流路に渡って首都高速道路の高架下を流れ、隅田川に永代橋付近で合流する 4.84km の一級河川。江戸城築城以来、開削・埋め立て・流路変更等繰り返され、現在の姿となる。江戸時代は水運で栄え、多くの河岸が連なり、江戸の経済・運輸・文化の中心であった。

【川づくり・まちづくりの概要】

日本橋地区は、江戸時代以来、歴史と文化に根ざし照合・金融・文化の中心として発展し、近年は国際金融・業務拠点、観光エリアの形成を担う地区として期待が寄せられて来た。

そこで、都心における貴重な自然資源である日本橋川に沿ったエリアを対象に、名橋「日本橋」を中心として日本橋川に空を取り戻すとともに、河川空間を活かした魅力ある街造りの実現に向けて、2015年（平成27年）9月に「日本橋川沿いエリアのまちづくりビジョン」が策定された（2021年（令和3年）6月に改定）。



日本橋の将来イメージ

【関連する主な取り組み内容】

○ 日本橋観光棧橋の整備

中央区が「水辺再生研究会」を開催し水辺空間の整備とその活用を検討し、2011年（平成23年）4月に完成した。この船着き場は、全長20メートル、幅6メートルの浮棧橋型。船着き場を固定する柱上部は、木製だったころの「日本橋」の欄干を参考にデザインしたほか、隣接する「滝の広場」の石造りの欄干に鋳物の門扉を設置されている。中央区で管理し、多くの船が観光ツアーを実施し、年間5～6万人が利用している。



日本橋観光棧橋

○ エコミュージアム

大手町連鎖型都市再生プロジェクトとしてUR都市機構と三菱地所が協働施工者となり、2012年（平成24年）11月、日本橋川沿川の大手町フィナンシャルシティが整備された。この北側の沿道には緑の園路を整備し、ベンチ等を配置し憩いの場として開放するとともに、都市型植物工場の実証実験場も設置され、先進的な環境技術を紹介するエコの情報発信スペースとなっている。



エコミュージアム

○ 護岸の改良（修景）

かつての日本橋の風情を再生するため、護岸の改良工事に合わせて、自然石や白壁による護岸整備が進められている。



護岸改修

資料) 東京都および中央区ホームページ 全国かわまちづくり MAP 等を抜粋・要約

2.3 道頓堀川（大阪市中央区）

【川の概要】

道頓堀川は、東横堀川と木津川を結ぶ、延長約 2.7km の一級河川。戦国時代末期の 1615 年（元和元年）に完成した人工河川である。開削以来、道頓堀川の周辺では歌舞伎の中座などの芝居小屋が集積し、劇場の街として栄え、観劇には屋形船や茶船が利用されてきた。現在も、娯楽施設・飲食店が建ち並び、大阪を代表する繁華街として栄えている。

【川づくり・まちづくりの概要】

道頓堀川は、大阪都心南部に残された貴重な水辺空間であるが、治水対策のために護岸が嵩上げされたことや、水質の汚濁などによって、現在の道頓堀川は、まちと隔たった存在となっていた。

道頓堀川水辺整備事業は、大阪市が掲げるまちづくりの目標「水都大阪」再生に向け、この道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道を整備し、その潤いある新鮮な空間によって都市魅力の向上に寄与することをめざしている。

- 親水性の高い遊歩道整備
- 大規模開発(湊町リバープレイスなど)にあわせた一体的な水辺整備
- 道頓堀川水門・東横堀川水門の開閉による取水調整（治水・水質改善事業）

【関連する主な取り組み内容】

○ 親水性の高い遊歩道整備

戎橋から太左衛門橋間に遊歩道(とんぼりリバーウォーク)が、2004 年（平成 16 年）12 月に完成した。この遊歩道は、片側 8m 程度の幅で上下 2 段構造となっている。また、太左衛門橋付近に船着き場を設け、遊歩道から大阪市内を巡る船への乗船が可能となっており、現在、「なにわコミュニティツーリズムコンソーシアム」が約 20 分間の道頓堀ミニクルーズを実地している。



遊歩道の整備



船着き場



ミニクルーズ船



夜のにぎわい

○ 大規模開発(湊町リバープレイスなど)にあわせた水辺整備

港町リバープレイスは、大阪市の都市構造再編プロジェクト「ルネッサなんば」のウォーターフロントゾーンとして 2002 年（平成 14 年）7 月に開業。音楽ホール(なんば Hatch)と、道頓堀遊歩道に隣接するイベントスペース(プラザ)等から構成されている。立体広場は、阪神高速道路ランプを覆う広さ約 7,000m²の人工地盤を利用して、道頓堀川の水辺空間と調和の取れた都心部のオアシスとして、人々が集い、にぎわい、憩える空間づくりを目指している。



夜のなんば Hatch

資料) 大阪市および大阪観光局ホームページより抜粋・要約

3 活動報告

■新堀川体験乗船会（出席者：8名）

日時：2021年5月28日（金）10：30～12：00・13：00～14：30

経路：七里の渡し跡～記念橋～七里の渡し跡

内容：新堀川の現状視察、歴史や水質浄化に関する解説

■第1回 新堀川将来ビジョン検討会議（出席者：13名）

日時：2021年7月27日（火）14：00～16：00

会場：名古屋商工会議所 3階第6会議室

- 内容：1. 委員自己紹介
 2. 説明「新堀川将来ビジョン検討会議について」
 3. 説明「新堀川の現状・体験乗船会後アンケート」
 4. 意見交換

■第2回 新堀川将来ビジョン検討会議（出席者：12名）

日時：2021年9月28日（火）14：00～16：00

会場：名古屋商工会議所 5階会議室BC

- 内容：協議事項
 提言「新堀川将来ビジョン（素案）」について

■第3回 新堀川将来ビジョン検討会議（出席者：12名）

日時：2021年12月7日（火）14：00～16：00

会場：名古屋商工会議所 5階会議室BC

- 内容：協議事項
 提言「新堀川将来ビジョン（案）」について

■第4回 新堀川将来ビジョン検討会議（出席者：14名）

日時：2022年2月3日（木）14：00～16：00

会場：名古屋商工会議所 4階特別会議室

- 内容：協議事項
 提言「新堀川将来ビジョン（案）」について

4 新堀川将来ビジョン検討会議 委員名簿

2022年(令和4年)2月28日 現在

【順不同・敬称略】

	所属	役職名	氏名
座長	名古屋工業大学大学院	工学研究科 教授	秀島 栄三
委員	堀川1000人調査隊	事務局長	服部 宏
委員	株式会社JTB ツーリズム事業本部 中部地区	名古屋事業部 観光開発シニアプロ デューサー(広域交流事業担当)	平野 宜行
委員	東邦ガス株式会社	CSR環境部 CSR推進グループ	前田 道孝
委員	名古屋鉄道株式会社	不動産事業本部 開発部 企画課長	内藤 誠
委員	西日本電信電話株式会社 東海支店	ビジネス営業部 第一エンター プライズビジネス営業部門 部門長	今江 通成
委員	株式会社日建設計	都市部門 都市開発グループ 企画開発室 アソシエイト	宮本 恵孝
委員	日本ガイシ株式会社	ESG推進部 部長	野尻 敬午
委員	三井不動産株式会社	中部支店事業グループ 統括	三宅 琢磨
委員	三菱地所株式会社 中部支店		田中 京祐
オブザーバー	名古屋市緑政土木局	河川部 河川計画課 主幹 (堀川総合整備)	山田 薫夫
オブザーバー	名古屋市住宅都市局	都市整備部 まちづくり企画課長	松本 直樹
オブザーバー	名古屋市環境局	地域環境対策部 地域環境対策 課長	磯部 正樹
オブザーバー	名古屋市上下水道局	技術本部計画部 下水道計画課 主幹(新事業推進)	池之上 貞治
事務局	名古屋商工会議所	商務交流部長	大竹 正芳
事務局	名古屋商工会議所	商務交流部 流通・観光・街づくり ユニット長	山形 佳史
事務局	名古屋商工会議所	商務交流部 流通・観光・街づくり ユニット	木村 哲志

名古屋商工会議所（商務交流部 流通・観光・街づくりユニット）

〒460-8422 名古屋市中区栄 2-10-19

TEL:052-223-5733 FAX:052-231-5703